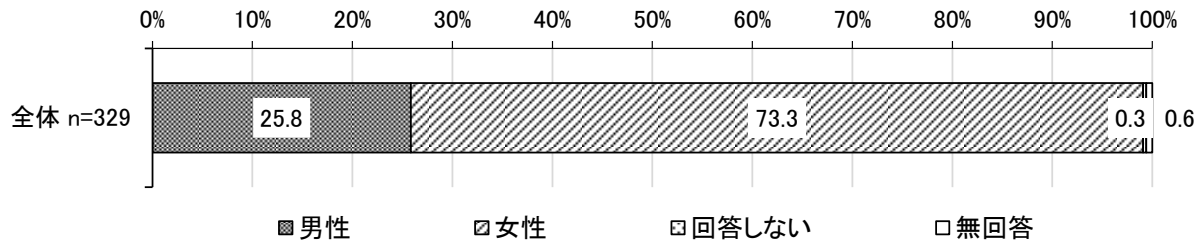


Ⅱ 高齢者のお世話をしているケアラー本人の調査結果

1. ケアラー自身のことについて

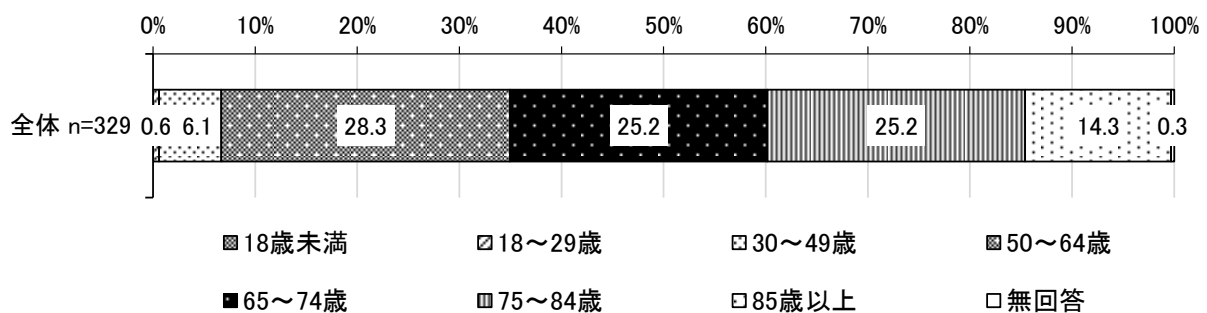
(1) ケアラー自身の性別

本調査の回答者の性別については、「男性」が25.8%、「女性」が73.3%となっています。



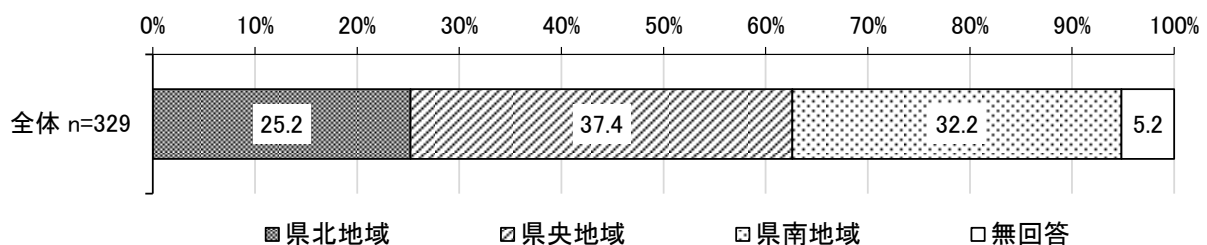
(2) ケアラー自身の年齢（令和5年4月1日時点）

本調査の回答者の年齢については、「50～64歳」が28.3%で最も高く、次いで「65～74歳」、「75～84歳」がともに25.2%、「85歳以上」が14.3%となっています。



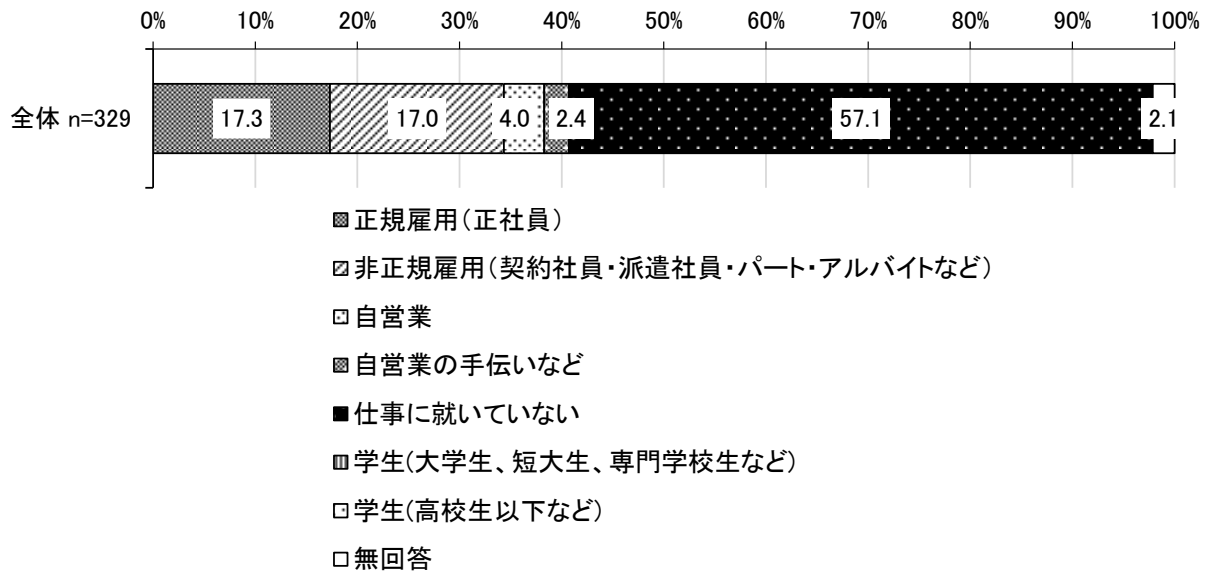
(3) ケアラー自身の居住地（地域）

本調査の回答者のお住まいの地域については、「県央地域」が37.4%で最も高く、次いで「県南地域」が32.2%、「県北地域」が25.2%となっています。



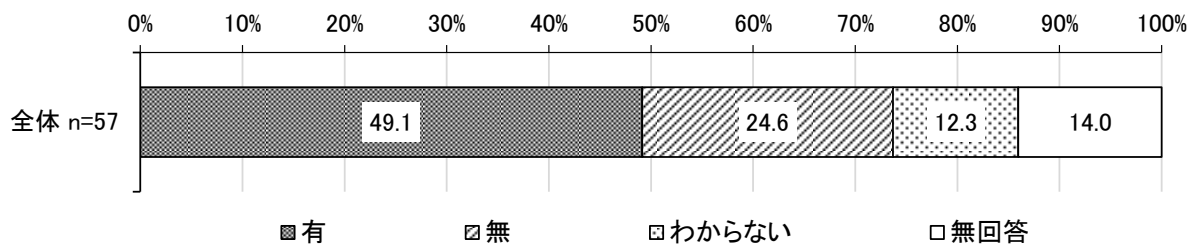
(4) ケアラー自身の就労状況

本調査の回答者の就労状況については、「仕事に就いていない」が57.1%で最も高く、次いで「正規雇用（正社員）」が17.3%、「非正規雇用（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトなど）」が17.0%となっています。



介護休暇制度の有無【「正規雇用（正社員）」を選んだ場合に限る】

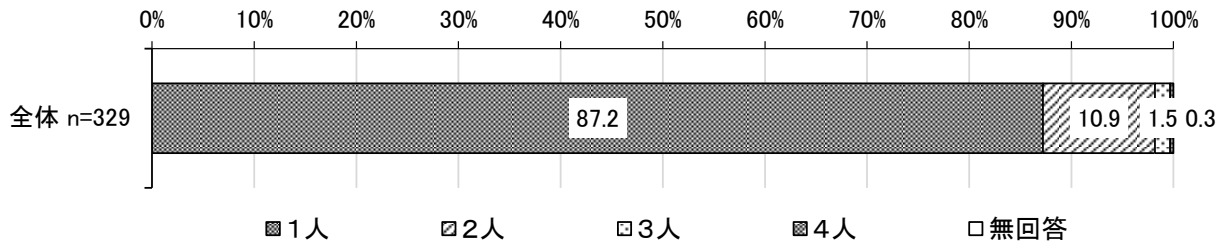
本調査の回答者の介護休暇制度の有無については、「有」が49.1%、「無」が24.6%、「わからない」が12.3%となっています。



2. お世話が必要な人のことについて

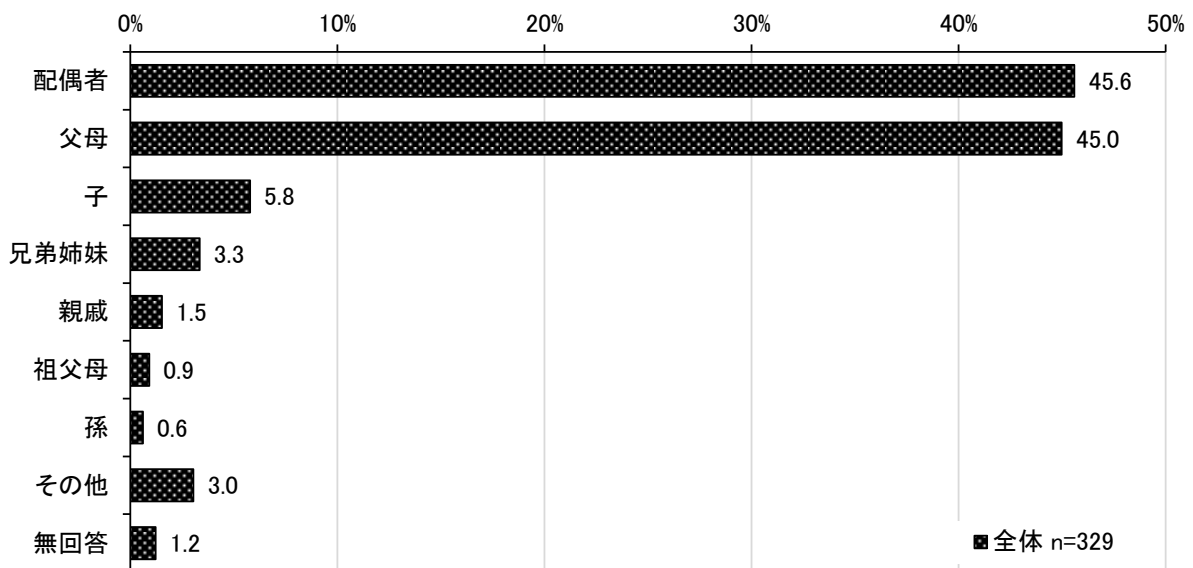
(5) - 1 お世話が必要な人の数（義理の関係なども含む。以下の質問も同じ。）

お世話が必要な人の数については、「1人」が87.2%で最も高く、次いで「2人」が10.9%、「3人」が1.5%となっています。



(5) - 2 お世話が必要な人との関係（複数回答）

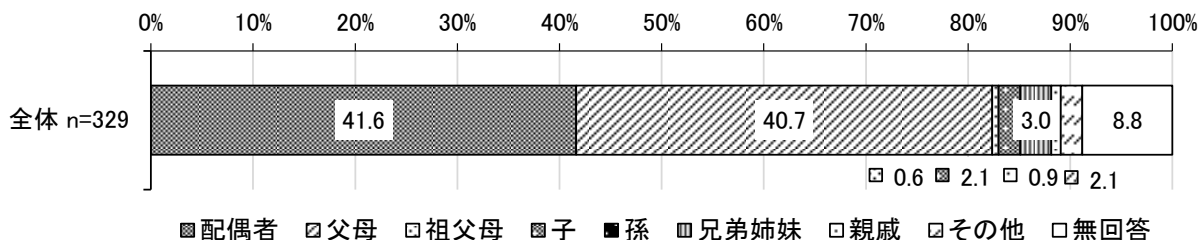
お世話が必要な人との関係については、「配偶者」が45.6%で最も高く、次いで「父母」が45.0%、「子」が5.8%となっています。



(5) - 3 お世話が一番大変な人との関係

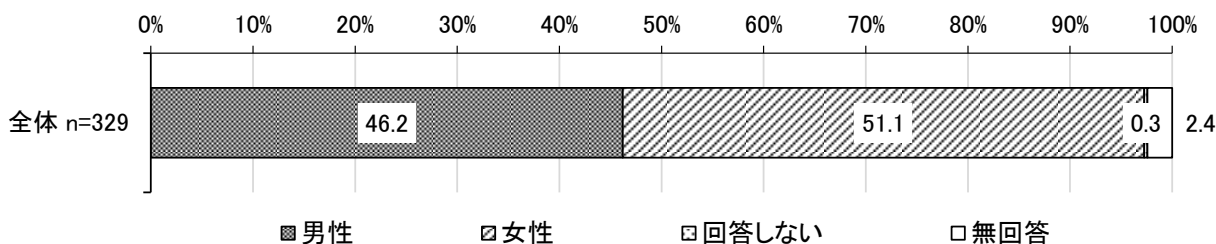
(※お世話が必要な人が複数人いる場合は、お世話が一番大変な人のことを回答。以下の質問も同じ。)

お世話が一番大変な人との関係については、「配偶者」が41.6%で最も高く、次いで「父母」が40.7%、「兄弟姉妹」が3.0%となっています。



(6) お世話が必要な人の性別

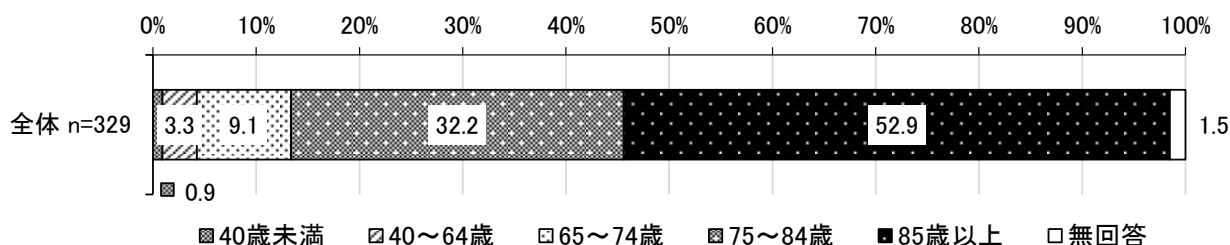
お世話が必要な人の性別については、「男性」が46.2%、「女性」が51.1%、「回答しない」が0.3%となっています。



(7) お世話が必要な人の年齢（令和5年4月1日時点）

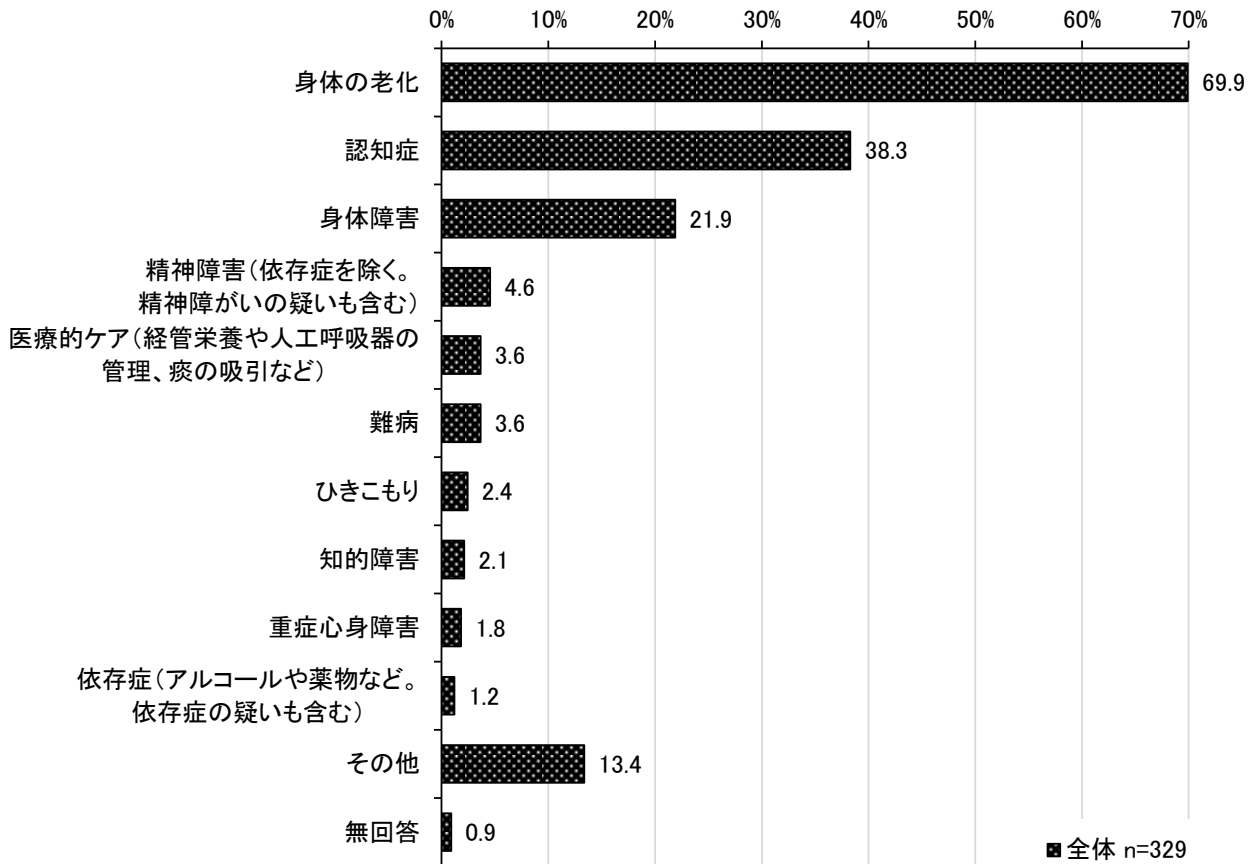
お世話が必要な人の年齢については、「85歳以上」が52.9%で最も高く、次いで「75～84歳」が32.2%、「65～74歳」が9.1%となっています。

後期高齢者となる75歳以上の方の割合が約9割となっています。



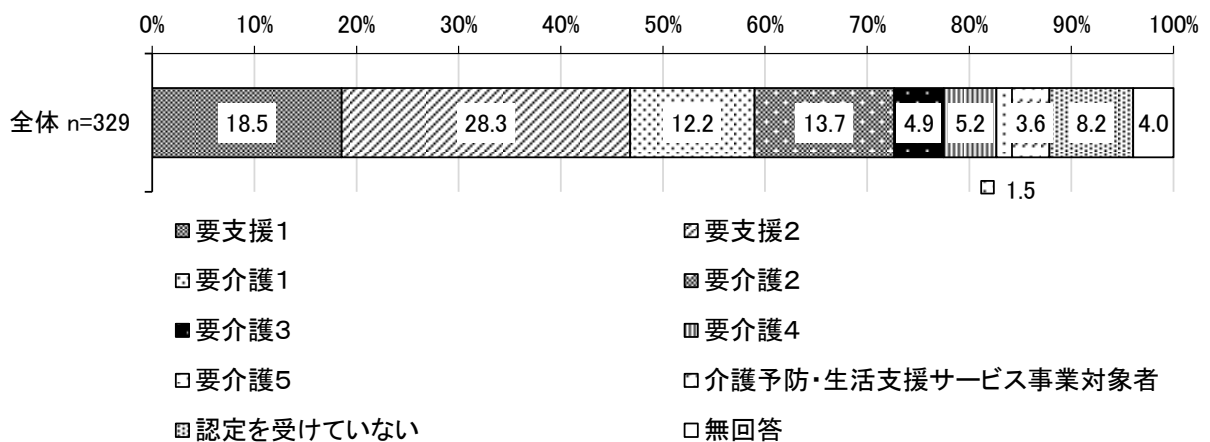
(8) お世話が必要な理由（複数回答）

お世話が必要な理由については、「身体の老化」が69.9%で最も高く、次いで「認知症」が38.3%、「身体障害」が21.9%となっています。



(9) お世話が必要な人の介護保険法上の認定区分

お世話が必要な人の介護保険法上の認定区分については、「要支援2」が28.3%で最も高く、次いで「要支援1」が18.5%、「要介護2」が13.7%となっています。



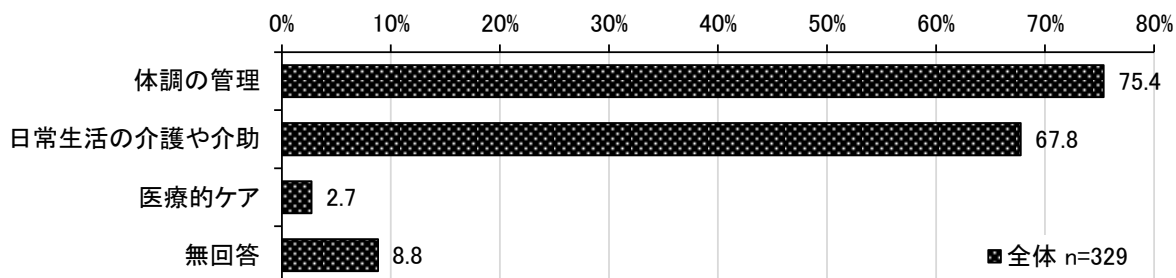
※介護予防・生活支援サービス事業対象者

→要介護認定は非該当だが、生活や健康状態を振り返り、心身の機能で衰えているところがないかをチェックする基本チェックリストで生活機能の低下がみられた方。

(10) お世話をしている内容（複数回答）

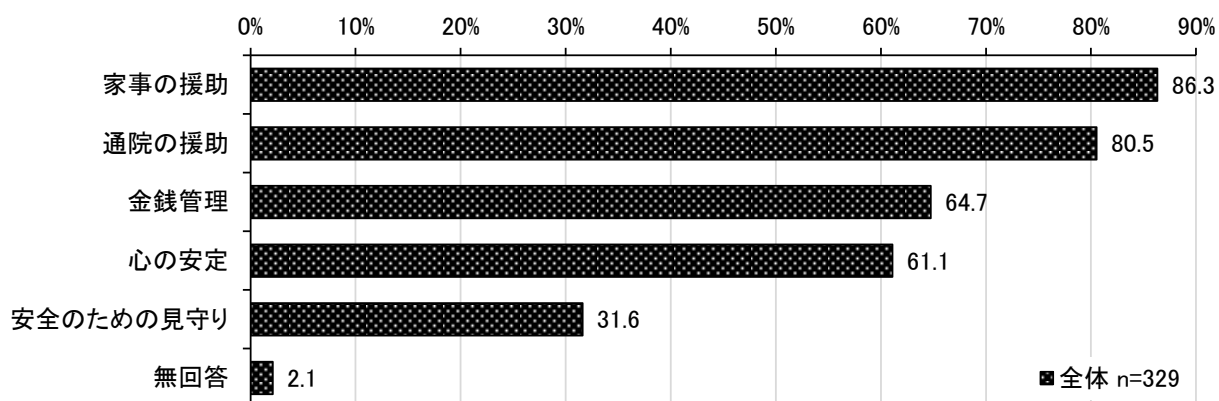
【A 身体的介護や介助のこと】

身体的介護や介助のことについては、「体調の管理」が75.4%で最も高く、次いで「日常生活の介護や介助」が67.8%、「医療的ケア」が2.7%となっています。



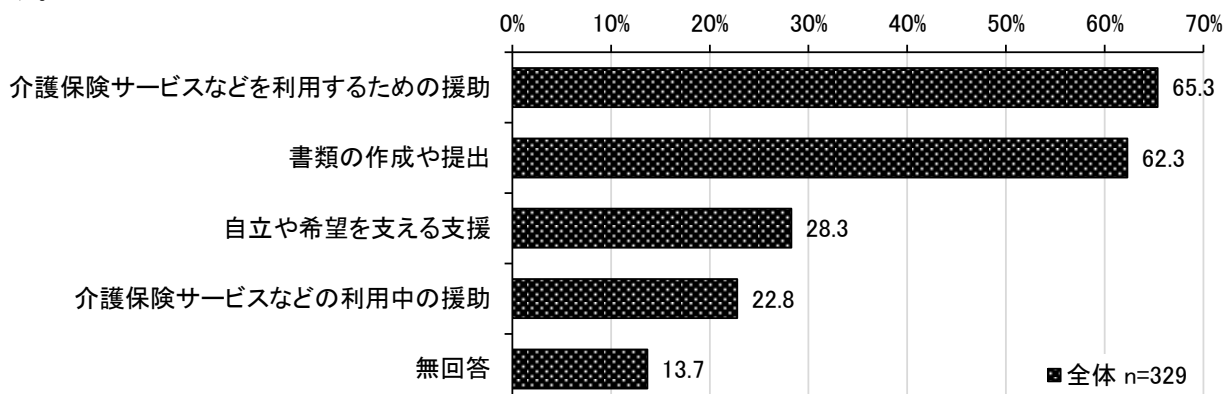
【B 日々の暮らしに関すること】

日々の暮らしに関することについては、「家事の援助」が86.3%で最も高く、次いで「通院の援助」が80.5%、「金銭管理」が64.7%となっています。



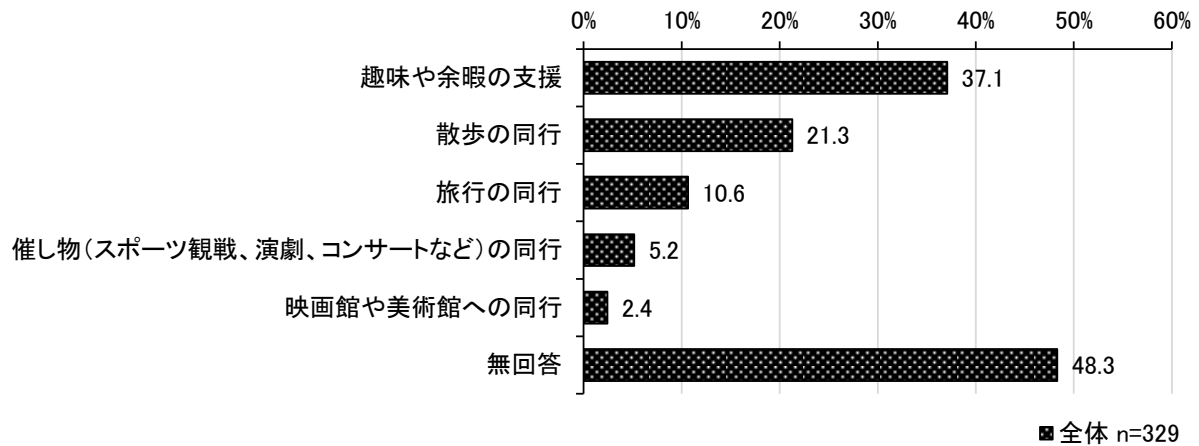
【C サービスの利用に関すること】

サービスの利用に関することについては、「介護保険サービスなどを利用するための援助」が65.3%で最も高く、次いで「書類の作成や提出」が62.3%、「自立や希望を支える支援」が28.3%となっています。



【D 趣味や余暇活動に関すること】

趣味や余暇活動に関することについては、「趣味や余暇の支援」が37.1%で最も高く、次いで「散歩の同行」が21.3%、「旅行の同行」が10.6%となっています。



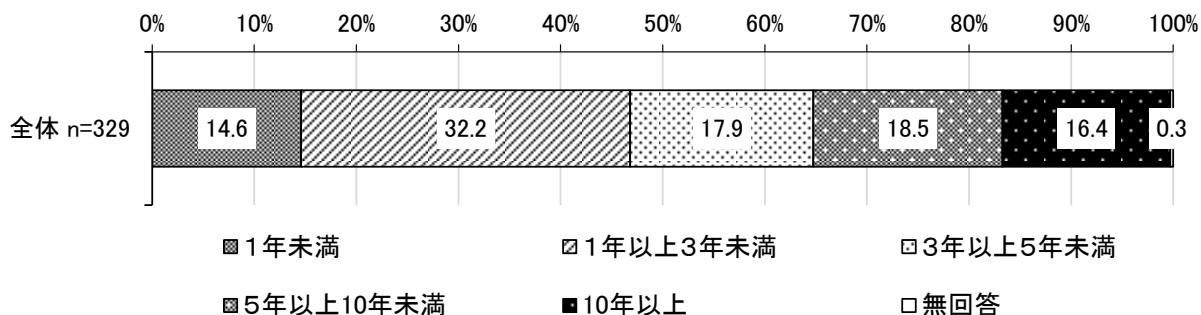
【E その他】 以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

- ・肌が弱くなってきた為、下着類買い換え、全身クリームをつける等々、本人の細かな変化に対応するよう日々の注意が必要。
- ・トイレの後の紙おむつを取り替え。
- ・ポータブルトイレの処理、雨戸の開閉。
- ・外食への同行。
- ・洋服、又、装飾品などの買い物同行。
- ・全介助の重度障害者のため、生活全般。
- ・短時間のドライブや買い物。
- ・施設入所のため、帰宅時の送迎や家に帰って来た時の支援。
- ・爪切り、髭剃り。
- ・庭の草刈りをはじめとして、木など近所へ迷惑をかけない様に管理。
- ・飲酒、転倒に対する見守り。

(11) お世話をしている期間

お世話をしている期間については、「1年以上3年未満」が32.2%で最も高く、次いで「5年以上10年未満」が18.5%、「3年以上5年未満」が17.9%となっています。

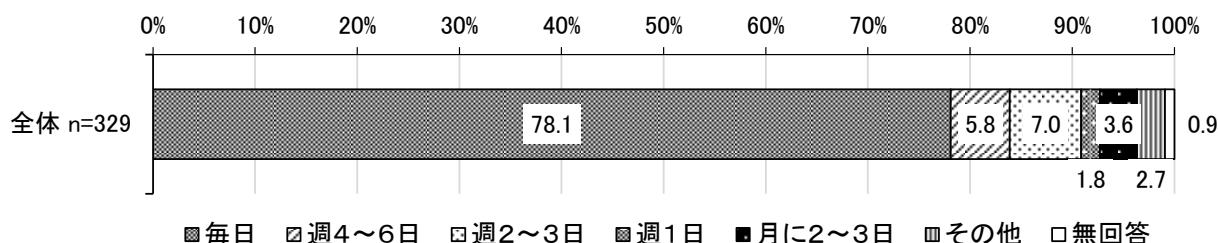
「5年未満」と回答した割合が約6割を占めていますが、「10年以上」と回答した割合も16.4%となっているなど、長期間お世話をしているケアラーもいます。



(12) お世話をしている頻度

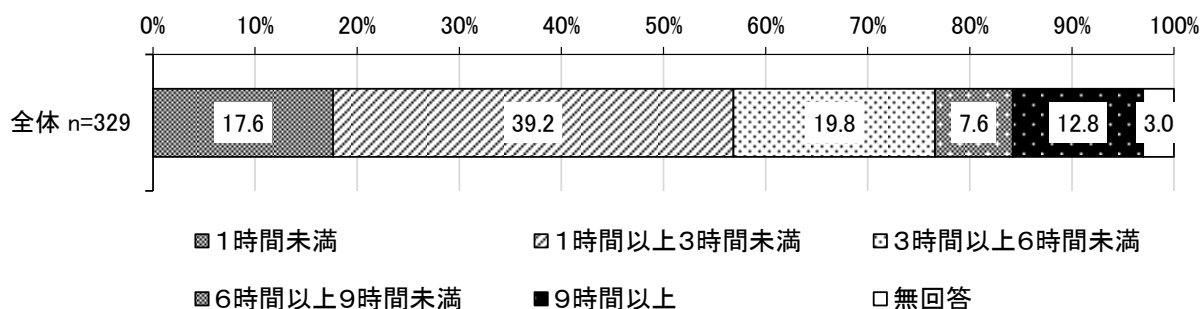
お世話をしている頻度については、「毎日」が78.1%で最も高く、次いで「週2～3日」が7.0%、「週4～6日」が5.8%となっています。

「毎日」と回答した割合が約8割を占めているなど、お世話をしている頻度が高いケアラーが多い傾向にあります。



(13) 1日あたりのお世話をしている時間

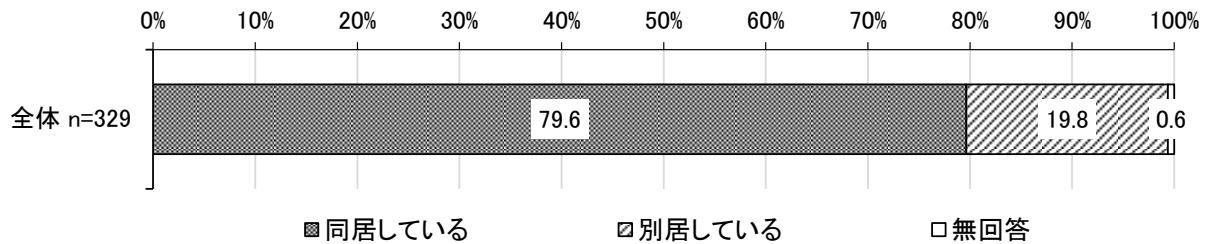
1日あたりのお世話をしている時間については、「1時間以上3時間未満」が39.2%で最も高く、次いで「3時間以上6時間未満」が19.8%、「1時間未満」が17.6%となっています。



3. ケアラー自身の家族のことについて

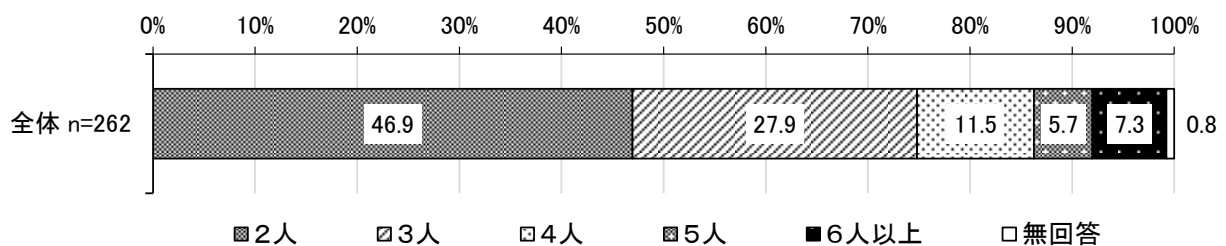
(14) お世話が必要な家族との同居・別居の状況

お世話が必要な家族との同居・別居の状況については、「同居している」が79.6%、「別居している」が19.8%となっています。



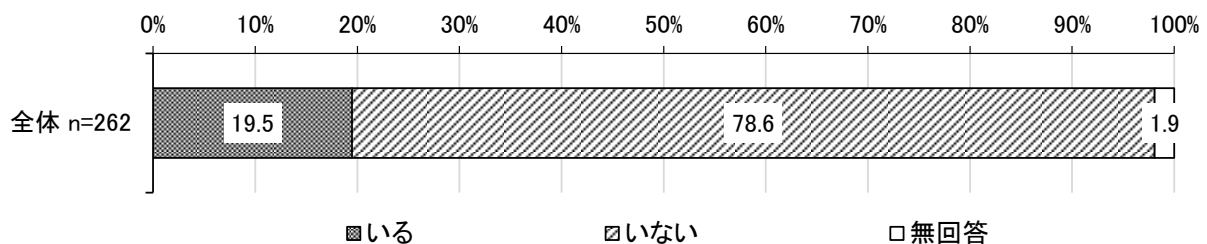
(15) 世帯人数【(14)で「同居」と回答した場合】

お世話が必要な家族と同居している場合の世帯人数については、「2人」が46.9%で最も高く、次いで「3人」が27.9%、「4人」が11.5%となっています。



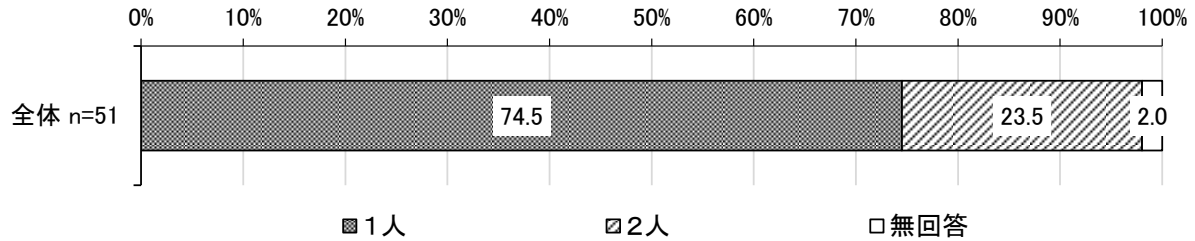
(16) 他にもお世話が必要な家族の有無【(14)で「同居」と回答した場合】

他にもお世話が必要な家族の有無については、「いる」が19.5%、「いない」が78.6%となっています。



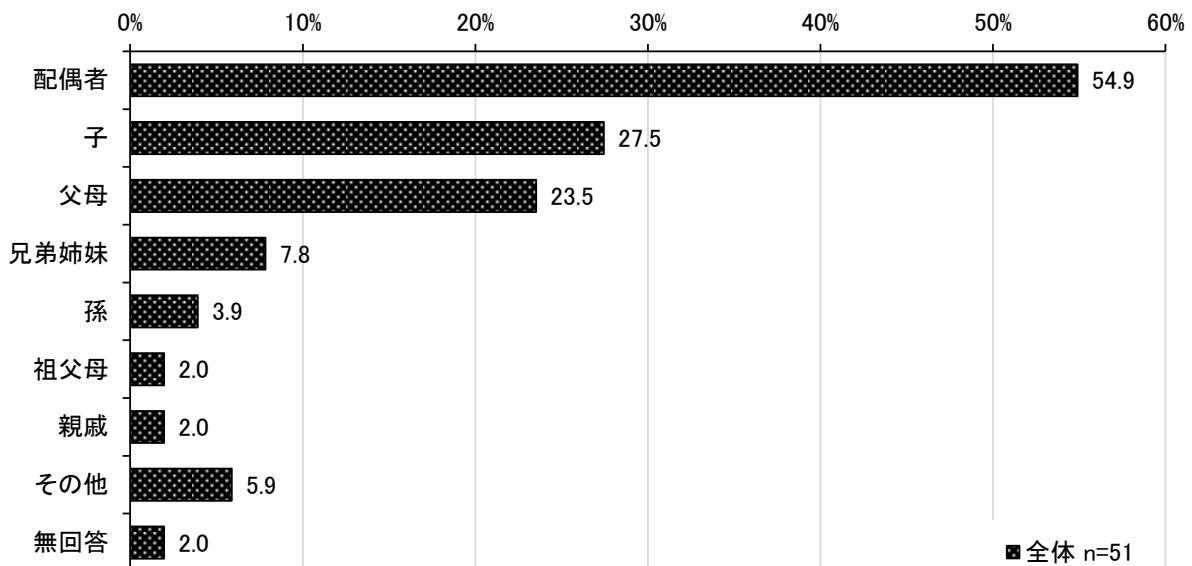
【「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族の人数】

「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族の人数については、「1人」が74.5%、「2人」が23.5%となっています。



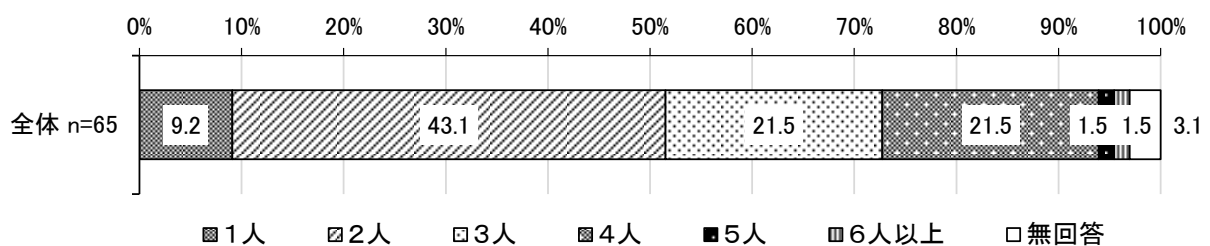
【「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族との関係】

「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族との関係については、「配偶者」が54.9%で最も高く、次いで「子」が27.5%、「父母」が23.5%となっています。



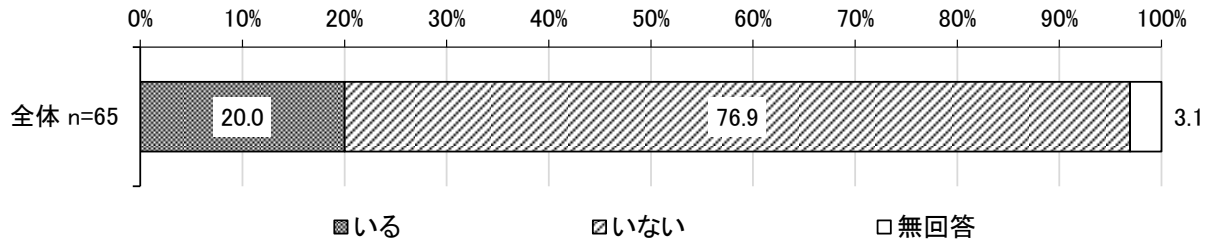
(17) 世帯人数【(14)で「別居」と回答した場合】

お世話が必要な人の世帯人数については、「2人」が43.1%で最も高く、次いで「3人」、「4人」がともに21.5%、「1人」が9.2%となっています。

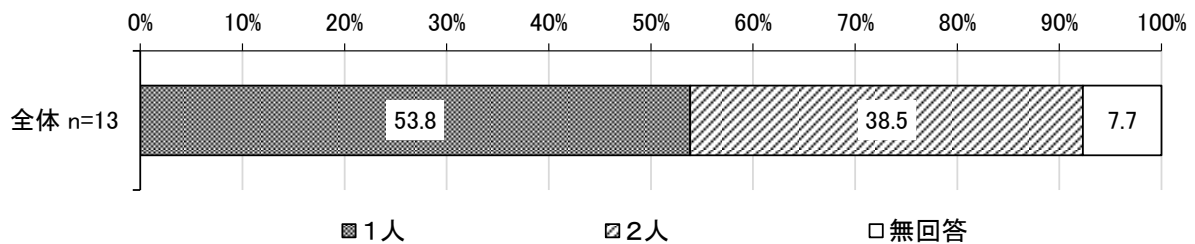


(18) 他にもお世話が必要な家族の有無【(14)で「別居」と回答した場合】

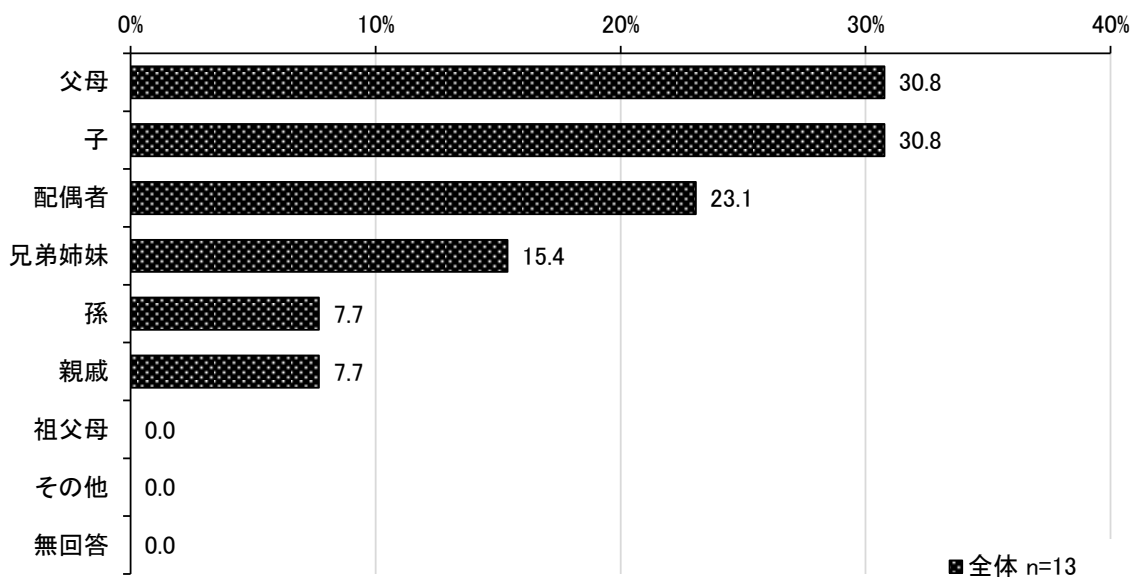
他にもお世話が必要な家族の有無については、「いない」が76.9%、「いる」が20.0%となっています。

**【「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族の人数】**

「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族の人数については、「1人」が53.8%、「2人」が38.5%となっています。

**【「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族との関係】**

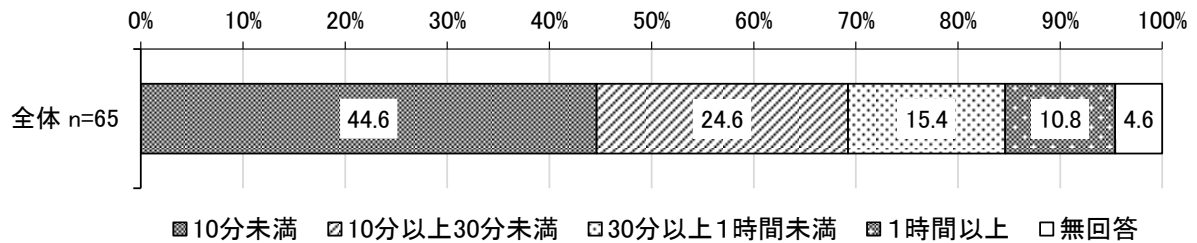
「いる」と回答した方の他にもお世話が必要な家族との関係については、「父母」、「子」がともに30.8%で最も高く、次いで「配偶者」が23.1%、「兄弟姉妹」が15.4%となっています。



(19) お世話が必要な家族の家までの所要時間【(14)で「別居」と回答した場合】

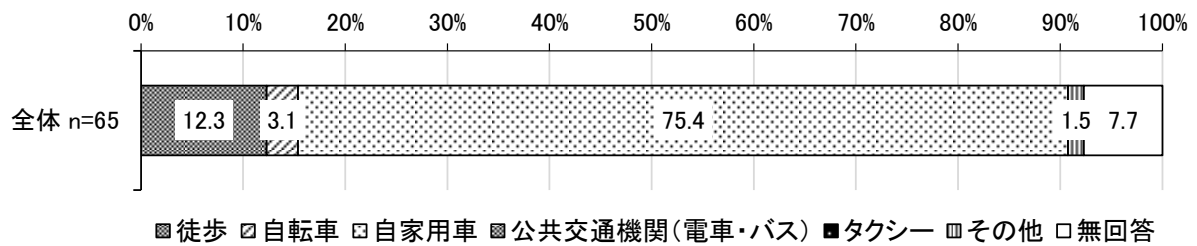
お世話が必要な家族の家までの所要時間については、「10分未満」が44.6%で最も高く、次いで「10分以上30分未満」が24.6%、「30分以上1時間未満」が15.4%となっています。

「30分未満」と回答した割合が約7割を占めるなど、比較的近距离に住んでいる傾向にあります。



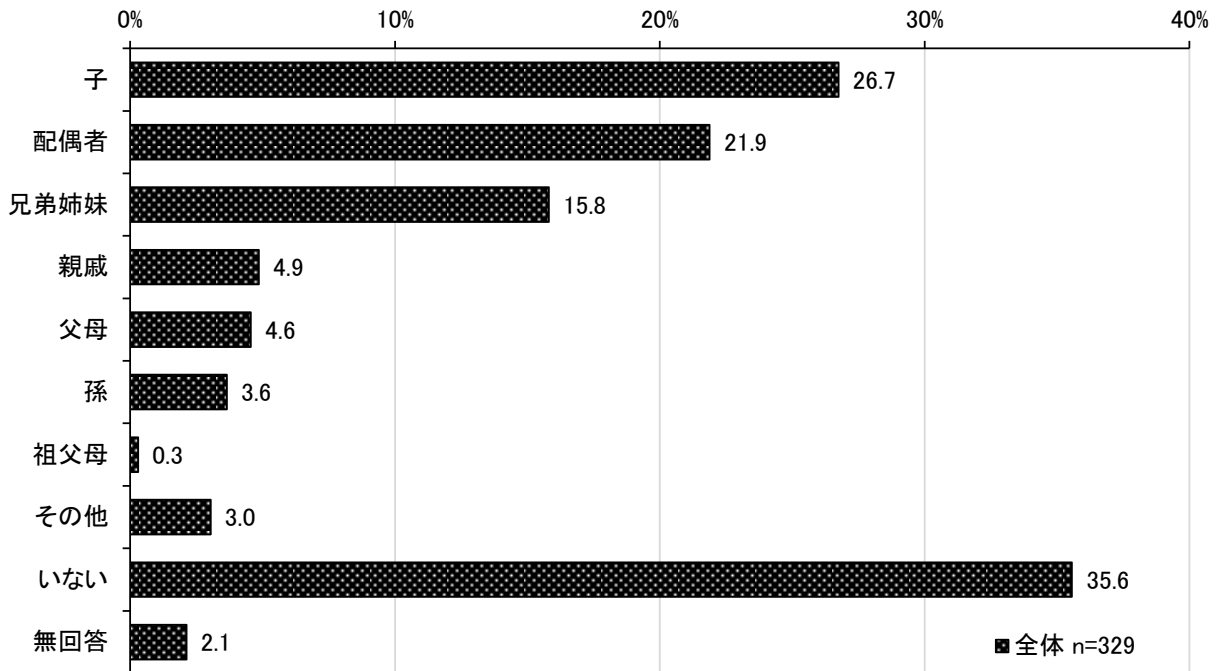
(20) お世話が必要な家族の家までの移動手段【(14)で「別居」と回答した場合】

お世話が必要な家族の家までの移動手段については、「自家用車」が75.4%で最も高く、次いで「徒歩」が12.3%、「自転車」が3.1%となっています。



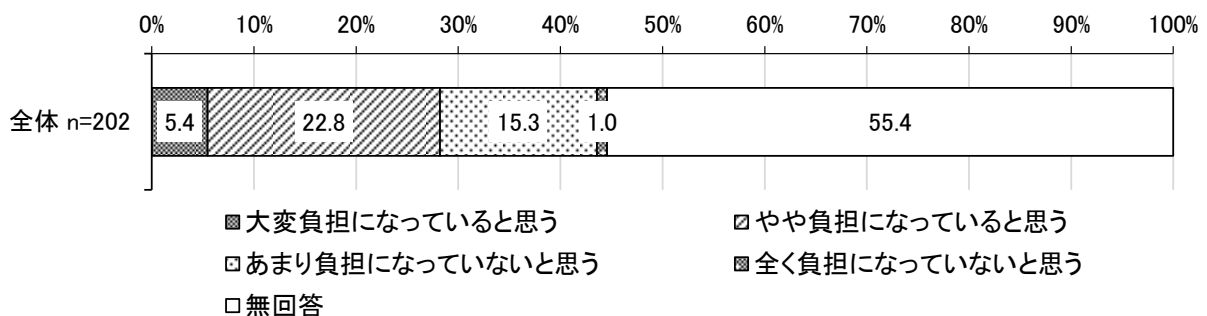
(21) 日常的にお世話を分担してくれる家族の有無（複数回答）

日常的にお世話を分担してくれる家族の有無については、「いない」が 35.6%と最も高く、次いで「子」が 26.7%、「配偶者」が 21.9%となっています。



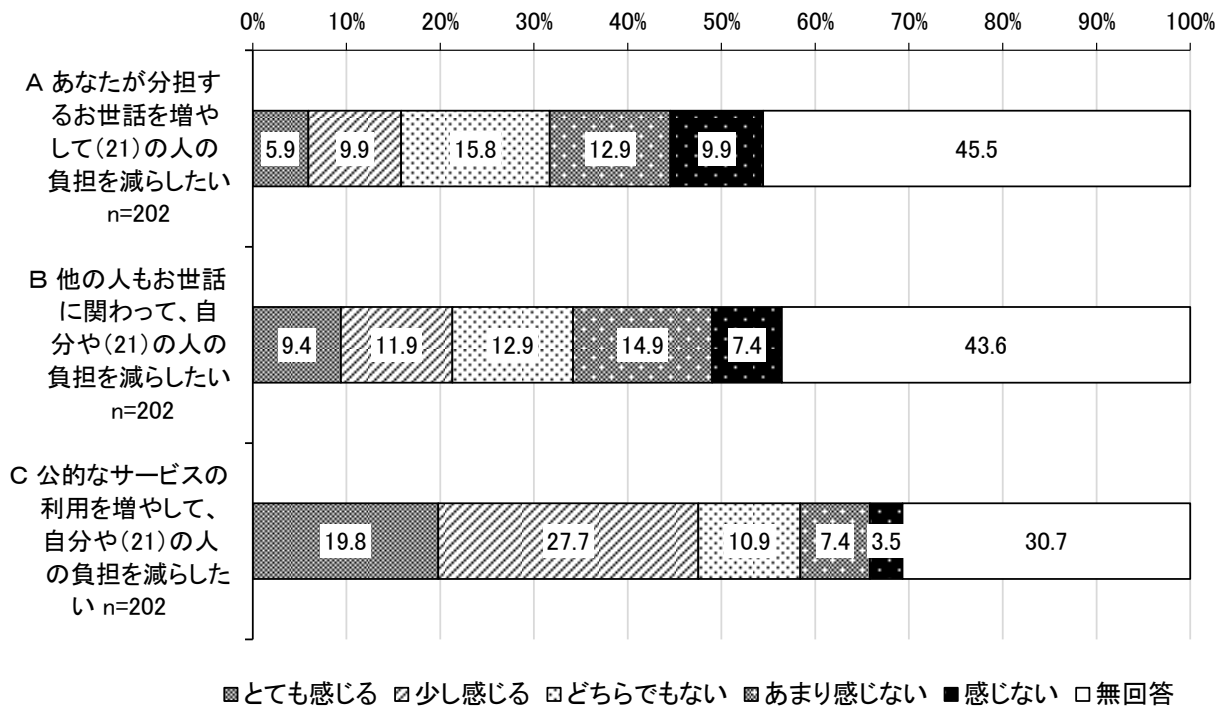
(22) 日常的にお世話を分担してくれる家族のお世話することへの負担感【(21)で「いない」以外を選択した場合】

日常的にお世話を分担してくれる家族がお世話することにどの程度負担を感じているかについては、「やや負担になっていると思う」と回答した方が 22.8%と最も高く、次いで「あまり負担になっていないと思う」が 15.3%、「大変負担になっていると思う」が 5.4%となっています。



(23) 日常にお世話を分担してくれる家族とお世話の分担について感じる事【(21)で「いない」以外を選択した場合】

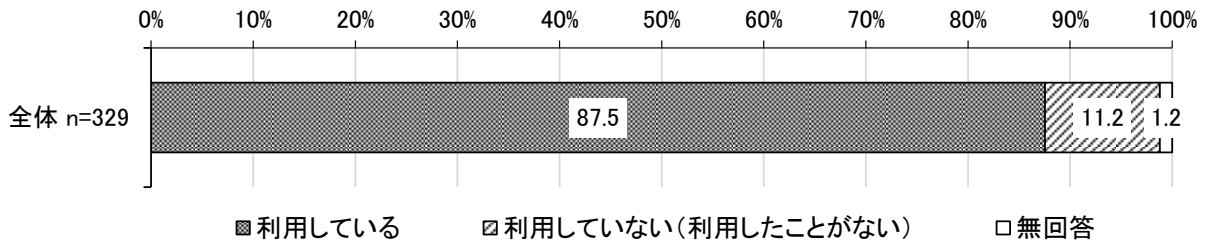
日常にお世話を分担してくれる家族とお世話の分担について感じる事については、『感じる(とても感じる+少し感じる)』では、「C 公的なサービスの利用を増やして、自分や(21)の人の負担を減らしたい」が47.5%で最も高く、次いで「B 他の人もお世話に関わって、自分や(21)の人の負担を減らしたい」が21.3%、「A あなたが分担するお世話を増やして(21)の人の負担を減らしたい」が15.8%となっています。



4. お世話が必要な人のサービス（公的支援・制度）利用状況について

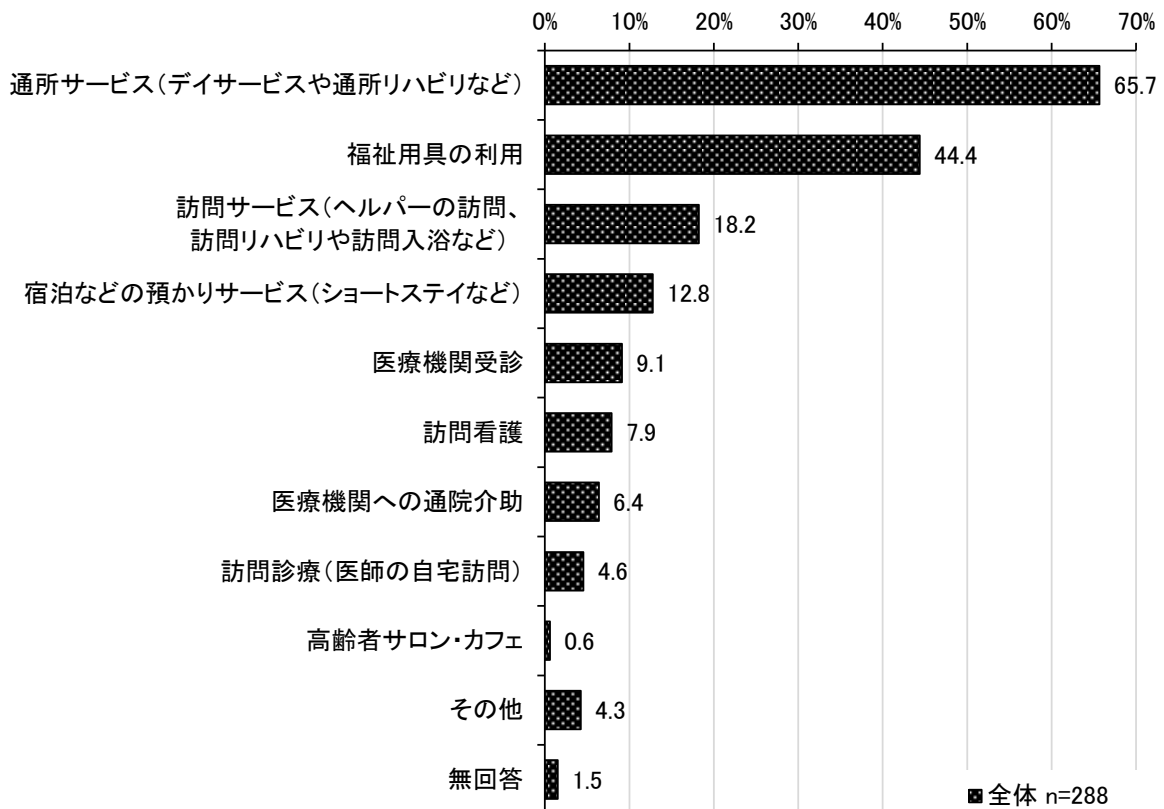
(24) お世話が必要な人の介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無

介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無については、「利用している」が87.5%、「利用していない（利用したことがない）」が11.2%となっています。



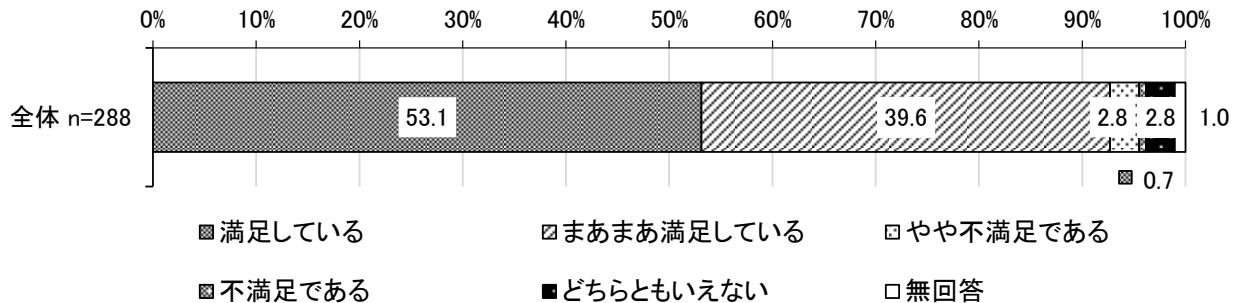
(25) 利用している（したことがある）サービスの種類（複数回答）

利用している（したことがある）サービスの種類については、「通所サービス（デイサービスや通所リハビリなど）」が65.7%で最も高く、次いで「福祉用具の利用」が44.4%、「訪問サービス（ヘルパーの訪問、訪問リハビリや訪問入浴など）」が18.2%となっています。



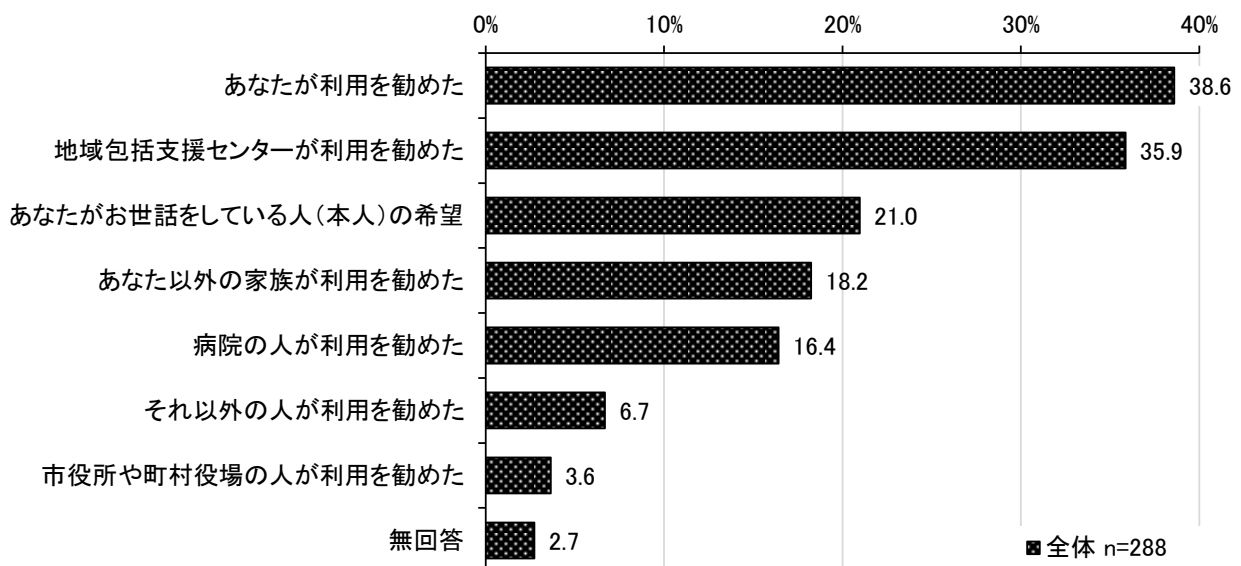
(26) 利用しているサービスへの満足感

利用しているサービスについては、『満足している(満足している+まあまあ満足している)』が92.7%、一方『満足していない(やや不満足である+不満足である)』が3.5%となっています。



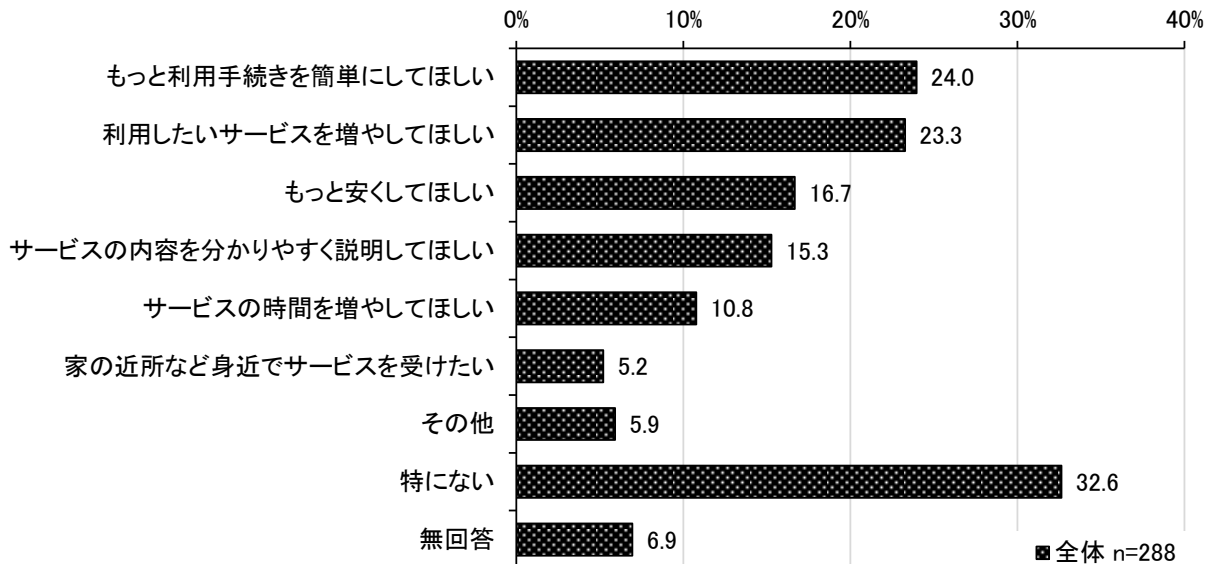
(27) サービス利用のきっかけ (複数回答)

サービス利用のきっかけについては、「あなたが利用を勧めた」が38.6%で最も高く、次いで「地域包括支援センターが利用を勧めた」が35.9%、「あなたがお世話をしている人(本人)の希望」が21.0%となっています。

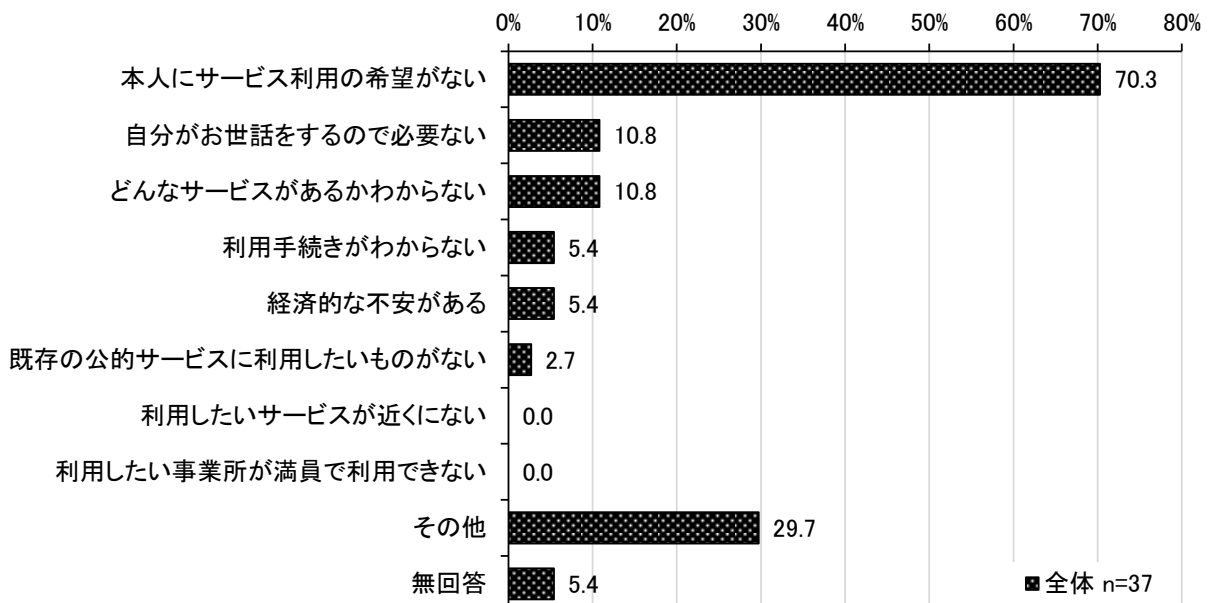


(28) サービス利用にあたり必要な配慮（複数回答）

サービス利用にあたり必要な配慮については、「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」が24.0%で最も高く、次いで「利用したいサービスを増やしてほしい」が23.3%、「もっと安くしてほしい」が16.7%となっています。

**(29) サービス事業所を利用していない（利用したことがない）理由（複数回答）【(24)で「利用していない（利用したことがない）」を選んだ場合】**

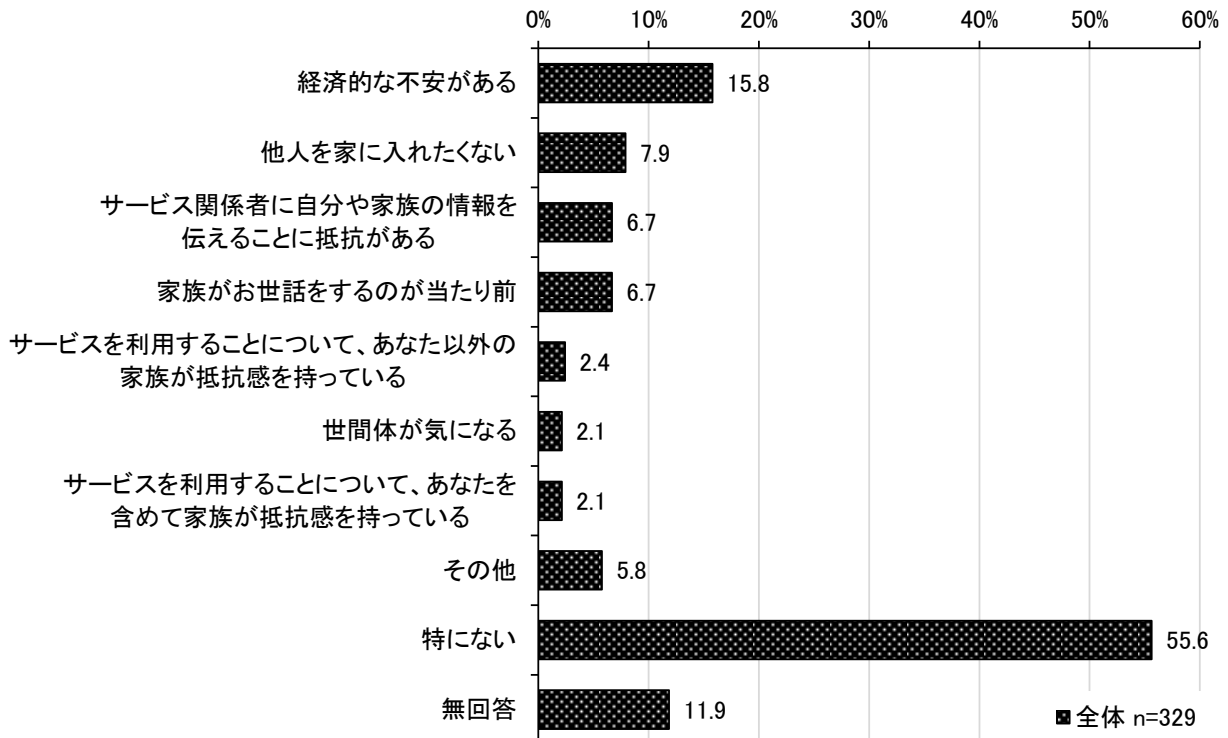
サービス事業所を利用していない（利用したことがない）理由については、「本人にサービス利用の希望がない」が70.3%で最も高く、次いで「自分がお世話をするので必要ない」、「どんなサービスがあるかわからない」がともに10.8%、「利用手続きがわからない」、「経済的な不安がある」がともに5.4%となっています。



(30) サービスの利用に対する抵抗感（複数回答）

サービスの利用に対する抵抗感については、「特にない」が55.6%と最も高く、次いで「経済的な不安がある」が15.8%、「他人を家に入れたくない」が7.9%となっています。

ケアラー自身が、お世話のためにサービスを利用することに対する抵抗感は低い傾向にあります。

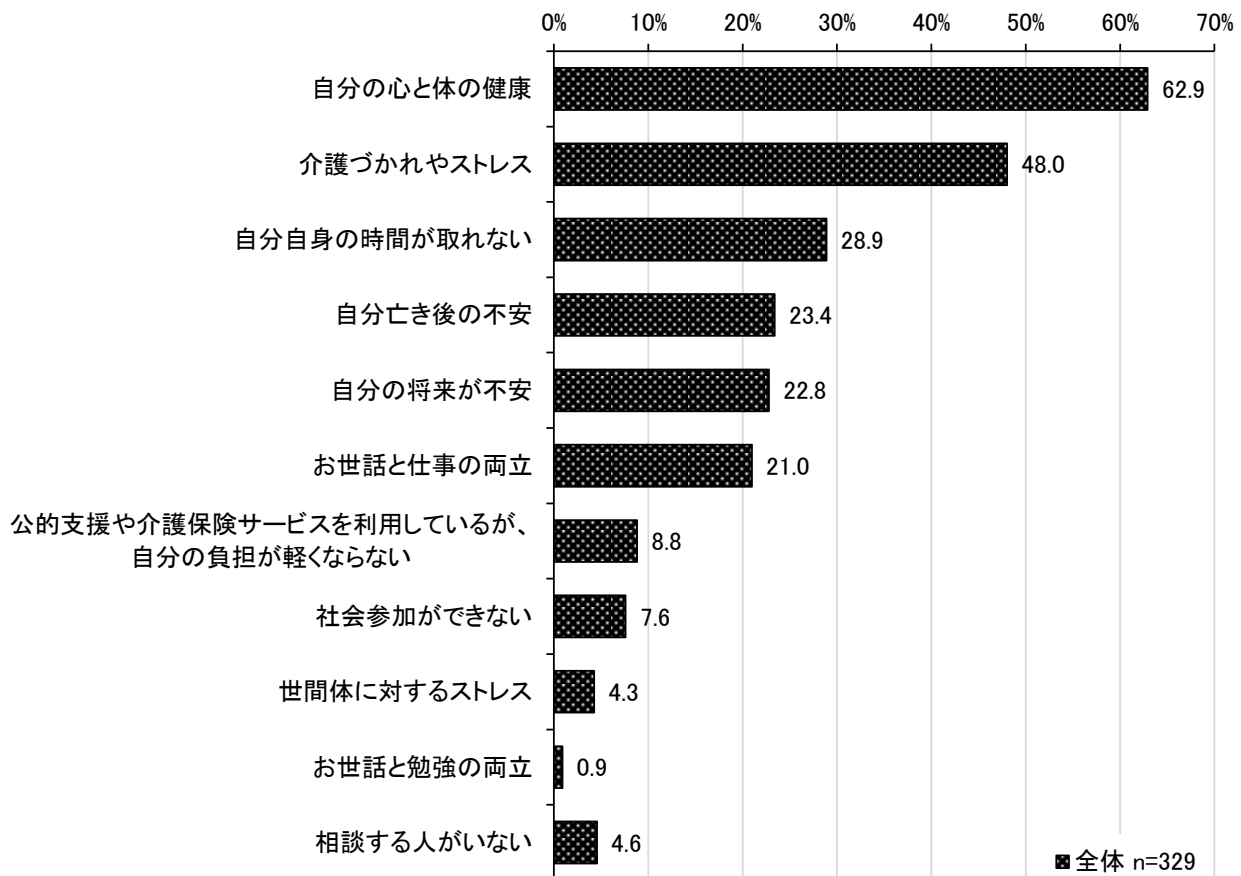


5. ケアラー自身の生活状況等について

(31) お世話をする上で困っていることや悩んでいること（複数回答）

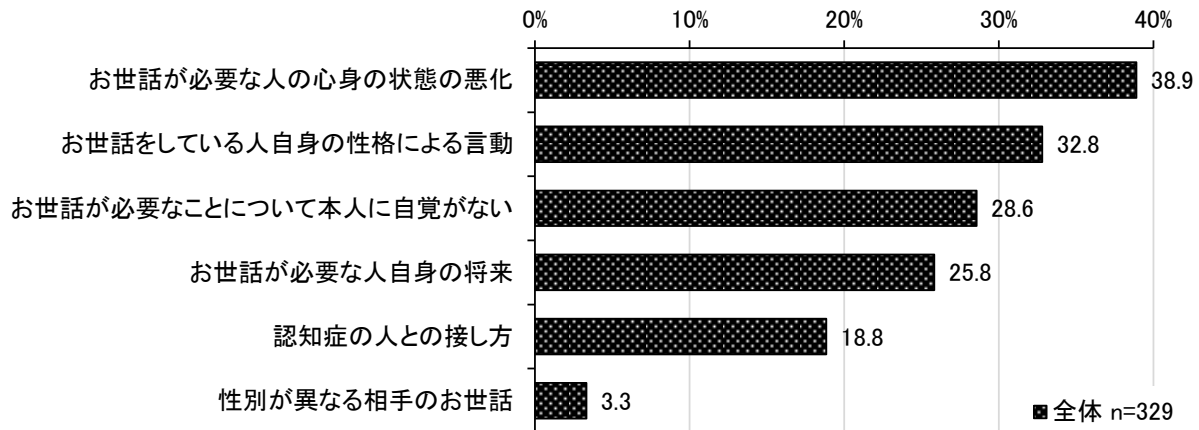
【A ケアラー自身のこと】

ケアラー自身のことについては、「自分の心と体の健康」が62.9%で最も高く、次いで「介護づかれやストレス」が48.0%、「自分自身の時間が取れない」が28.9%となっています。



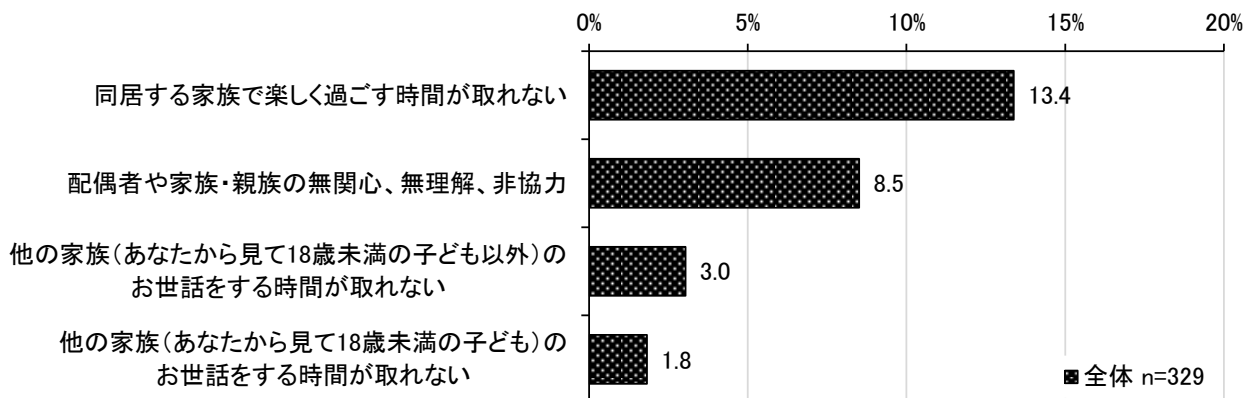
【B お世話が必要な人のこと】

お世話が必要な人のことについては、「お世話が必要な人の心身の状態の悪化」が 38.9%で最も高く、次いで「お世話をしている人自身の性格による言動」が 32.8%、「お世話が必要なことについて本人に自覚がない」が 28.6%となっています。



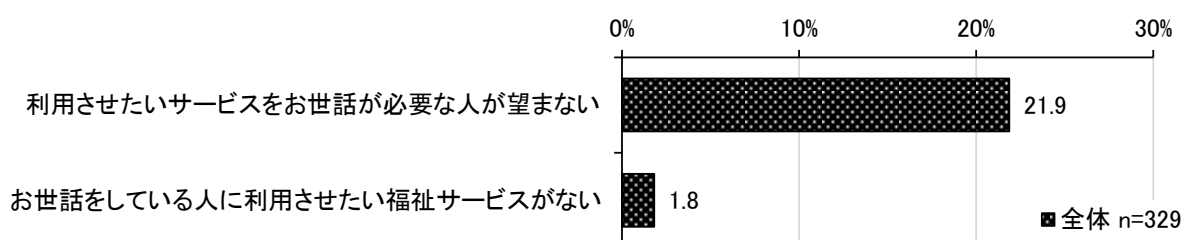
【C ケアラー自身の世帯や家族のこと】

ケアラー自身の世帯や家族のことについては、「同居する家族で楽しく過ごす時間が取れない」が 13.4%で最も高く、次いで「配偶者や家族・親族の無関心、無理解、非協力」が 8.5%、「他の家族（あなたから見て 18 歳未満の子ども以外）のお世話をする時間が取れない」が 3.0%となっています。



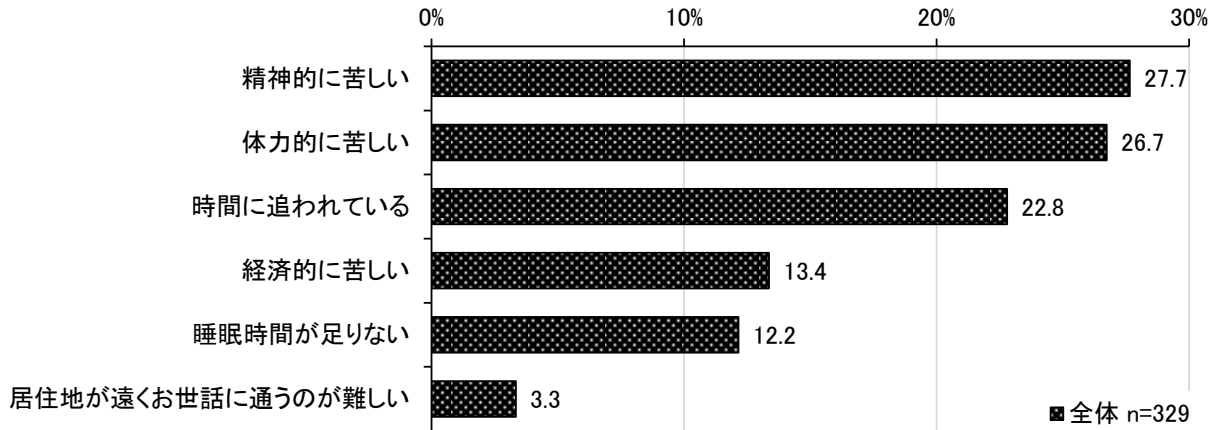
【D サービスの利用に関すること】

サービスの利用に関することについては、「利用させたいサービスをお世話が必要な人が望まない」が 21.9%、「お世話をしている人に利用させたい福祉サービスがない（近所にデイサービスがないなど）」が 1.8%となっています。



【E 日々の生活のこと】

日々の生活のことについては、「精神的に苦しい」が 27.7%で最も高く、次いで「体力的に苦しい」が 26.7%、「時間に追われている」が 22.8%となっています。

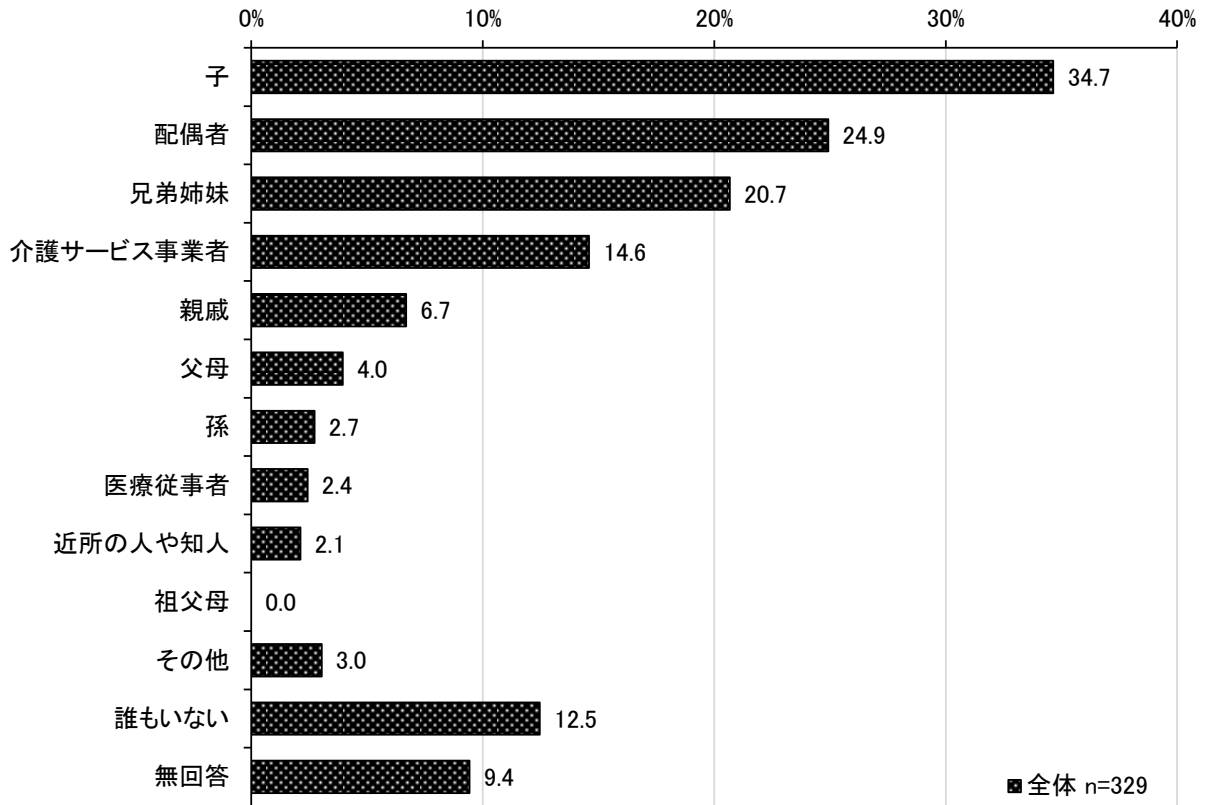


【F その他】 以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

- ・今はそれほどでないが腰痛とか時に出て自分自身も年をとっていくと不安を感じる。
- ・遠出の外出。宿泊の旅行ができない。
- ・介護と子育ての両立が大変である。介護を受けている人がデイサービスなどを望まないのので 24 時間ホッとする時間がない。子育て中だが、子どもにあたってしまうことがあり申し訳なく思っている。
- ・仕事が忙しくても残業時間がとれない時がある。他の日で調整しなければならない。
- ・夫が夜中に起きて外出しようとしたり、着替えて荷造りをしたり、トイレがうまくできない。本人にしかわからないことを話していたりして、自分自身が眠れないことに困っている。
- ・特に困っていることはない。

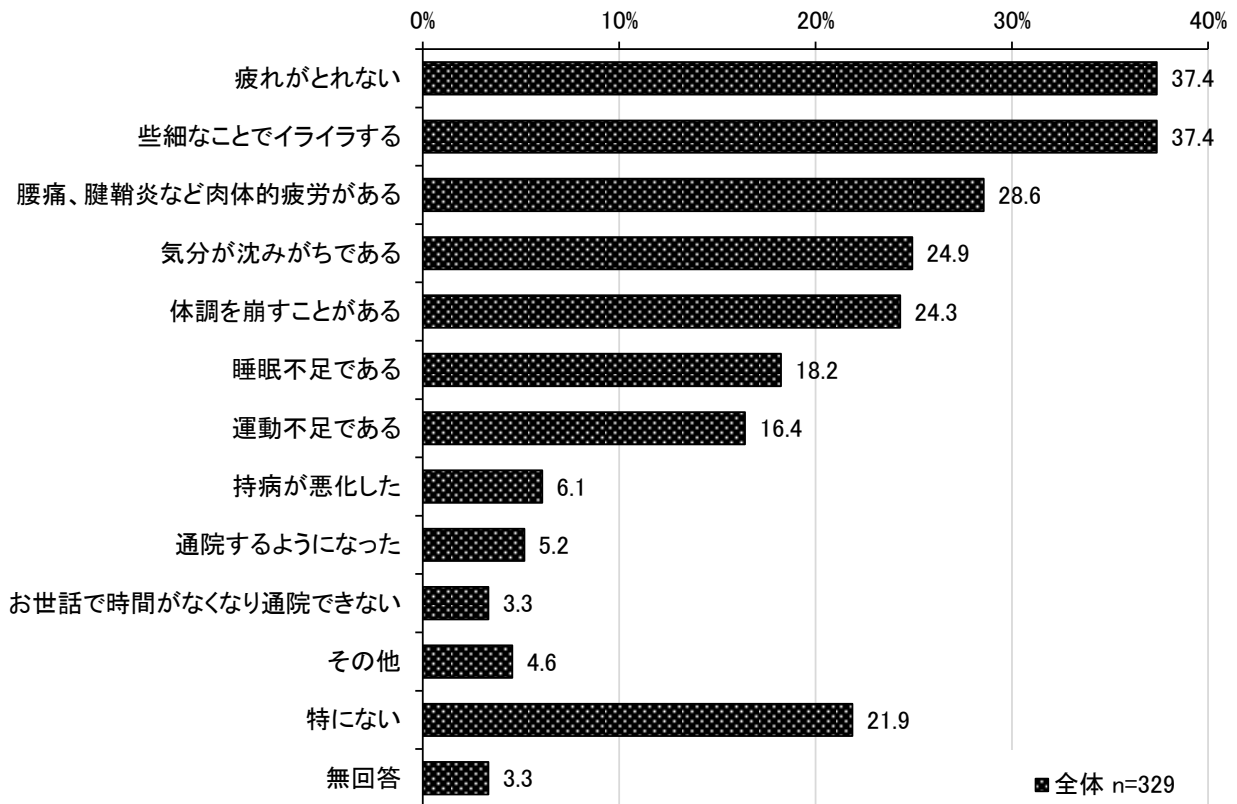
(32) 体調不良時等に代わりにお世話をしてくれる人のこと（複数回答）

体調不良時等に代わりにお世話をしてくれる人のことについては、「子」が34.7%で最も高く、次いで「配偶者」が24.9%、「兄弟姉妹」が20.7%となっています。一方で、「誰もいない」は12.5%となっています。

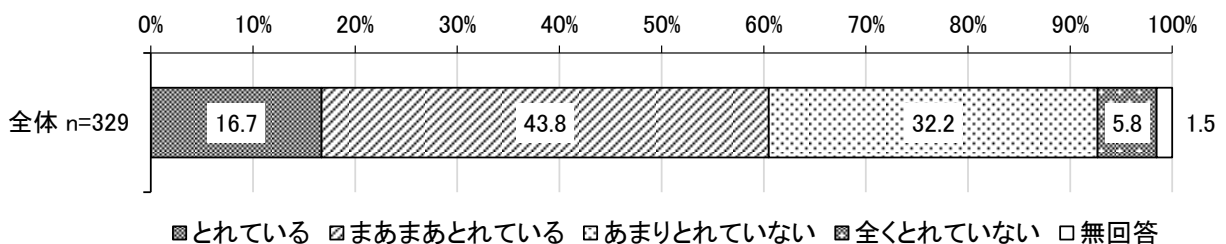


(33) お世話をすることによる健康状態への影響（複数回答）

お世話をすることによる健康状態への影響については、「疲れがとれない」、「些細なことでイライラする」がともに37.4%で最も高く、次いで「腰痛、腱鞘炎など肉体的疲労がある」が28.6%、「気分が沈みがちである」が24.9%となっています。

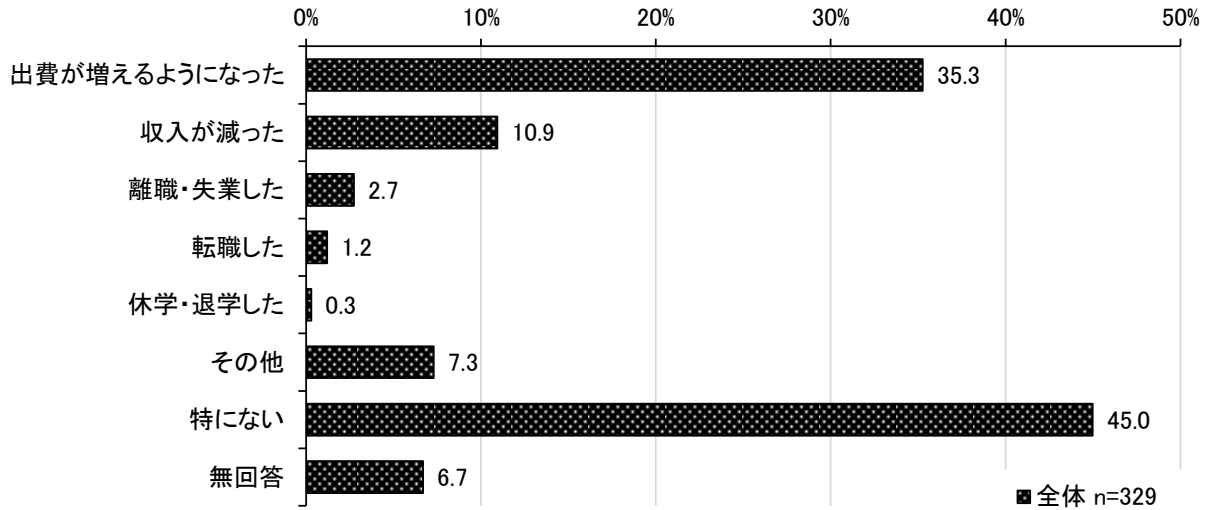
**(34) 趣味や休息など、ケアラー自身のための時間の充足感**

趣味や休息など、ケアラー自身のための時間の充足感については、『とれている（とれている+まあまあとれている）』が60.5%、一方、『とれていない（あまりとれていない+全くとれていない）』が38.0%となっています。



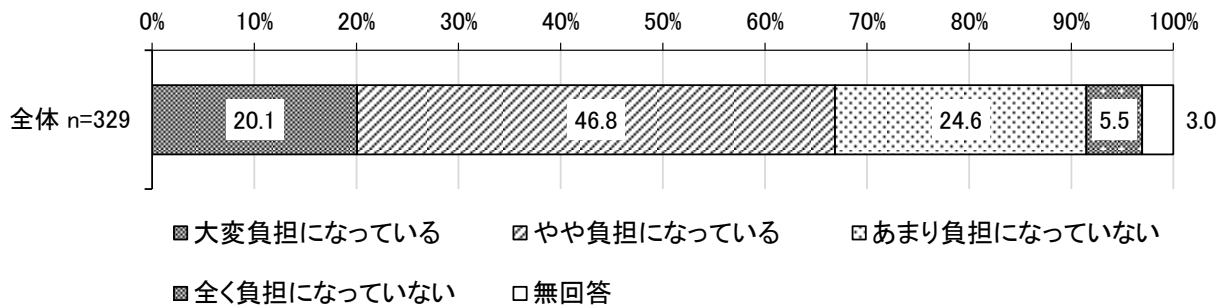
(35) お世話をすることによる生活への影響（複数回答）

お世話をすることによる生活への影響については、「出費が増えるようになった」が35.3%で最も高く、次いで「収入が減った」が10.9%、「離職・失業した」が2.7%となっています。



(36) ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感

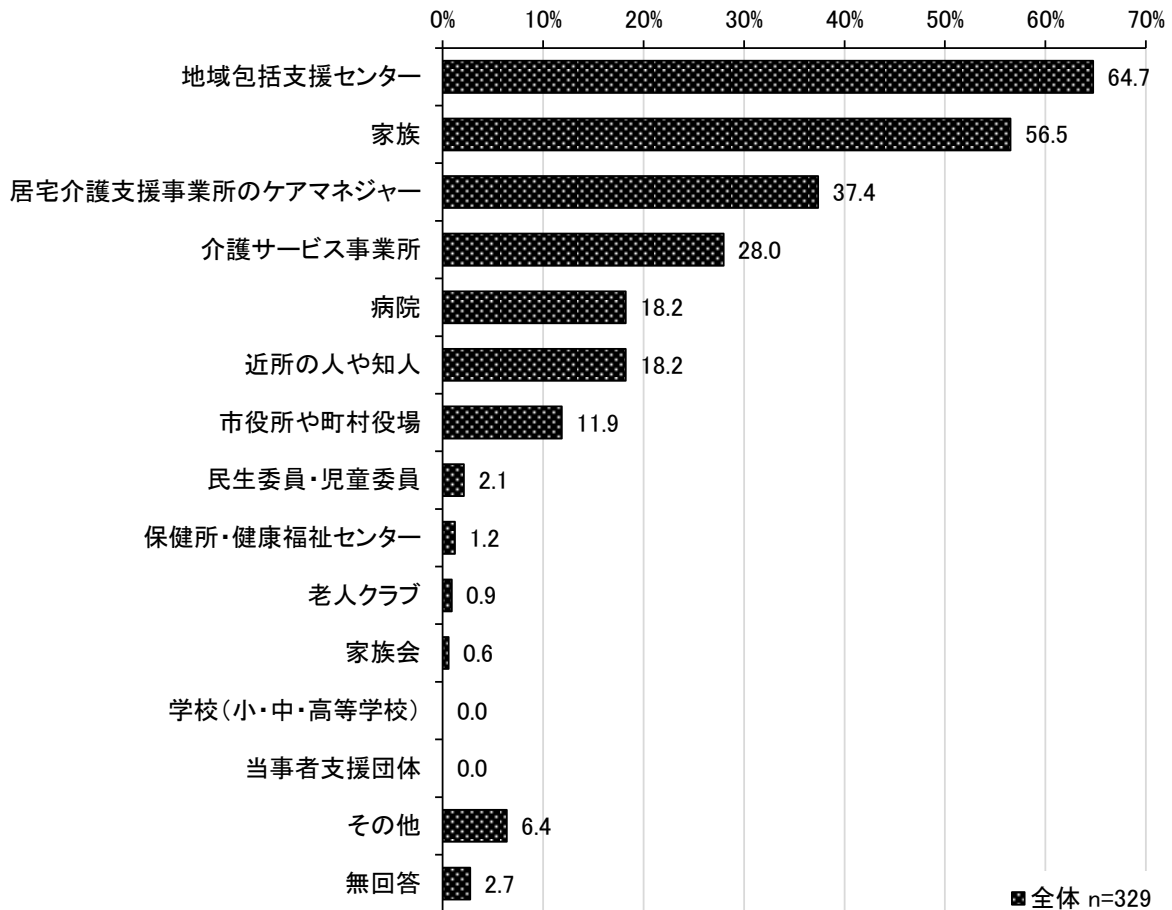
ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感については、『負担になっている（大変負担になっている+やや負担になっている）』が66.9%、一方、『負担になっていない（あまり負担になっていない+全く負担になっていない）』が30.1%となっています。



6. ケアラー自身への支援について

(37) ケアラー自身が頼りにしている相談先や窓口（複数回答）

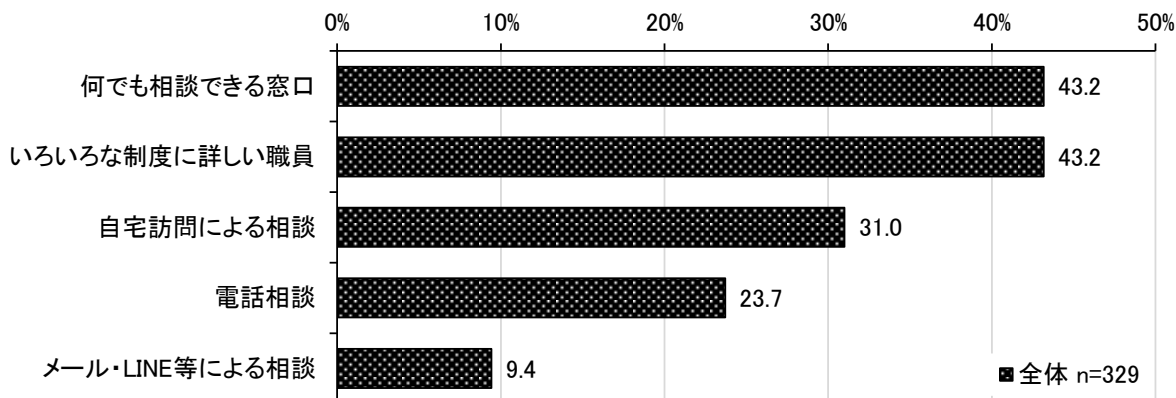
ケアラー自身が頼りにしている相談先や窓口については、「地域包括支援センター」が64.7%で最も高く、次いで「家族」が56.5%、「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が37.4%となっています。



(38) ケアラー自身を支えるために必要だと思う支援（複数回答）

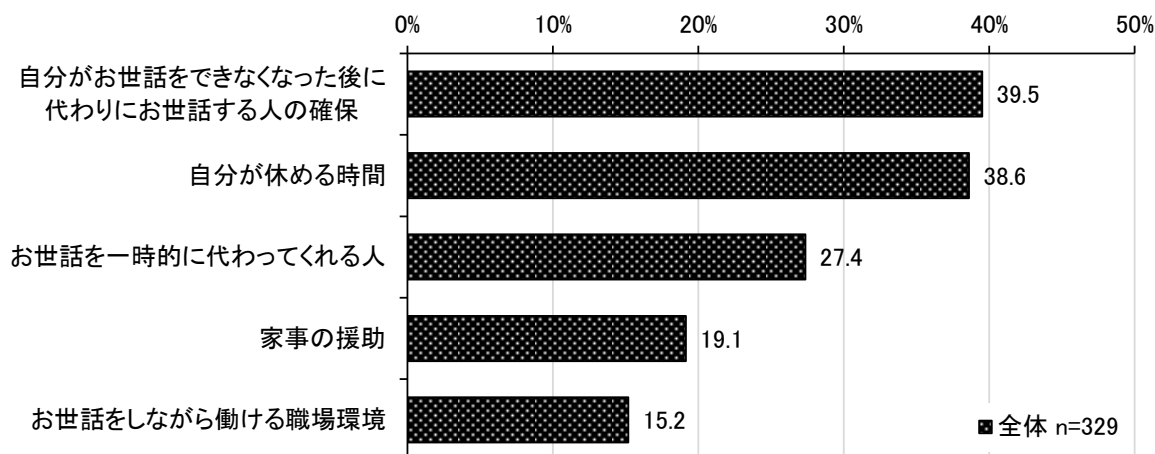
【A ケアラー自身が相談できる人や場所】

ケアラー自身が相談できる人や場所については、「何でも相談できる窓口」、「いろいろな制度に詳しい職員」がともに43.2%で最も高く、次いで「自宅訪問による相談」が31.0%、「電話相談」が23.7%となっています。



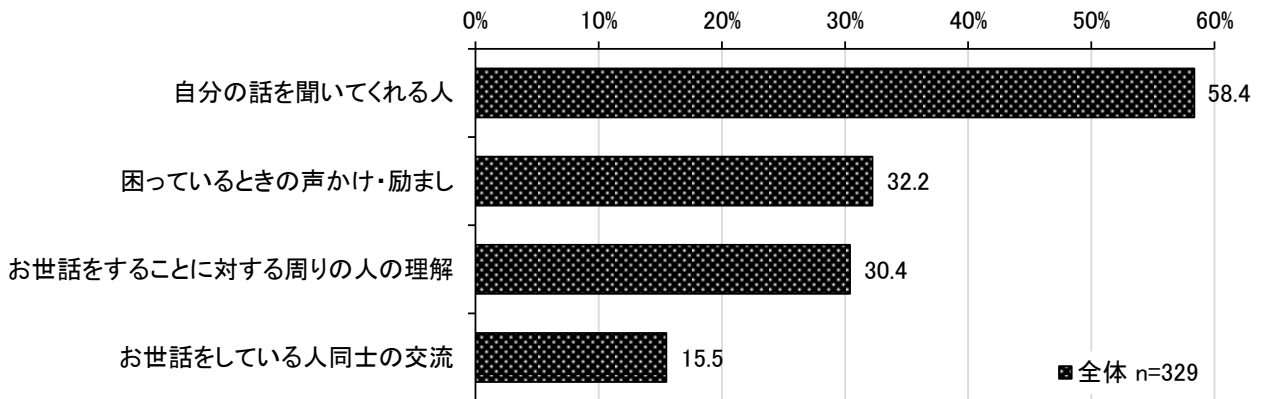
【B ケアラー自身の負担を軽減する支援】

ケアラー自身の負担を軽減する支援については、「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話する人の確保」が39.5%で最も高く、次いで「自分が休める時間」が38.6%、「お世話を一時的に代わってくれる人」が27.4%となっています。



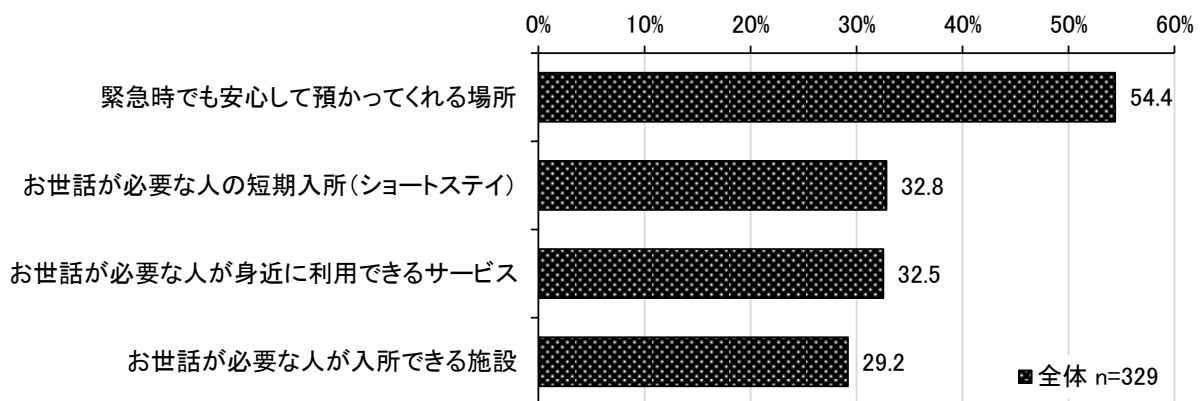
【C ケアラー自身の精神的な支え】

ケアラー自身の精神的な支えについては、「自分の話を聞いてくれる人」が58.4%で最も高く、次いで「困っているときの声かけ・励まし」が32.2%、「お世話をすることに対する周りの人の理解」が30.4%となっています。



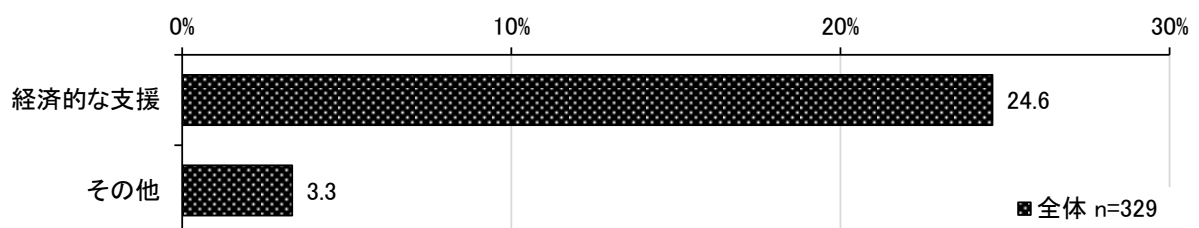
【D お世話が必要な人のための各種サービス及び支援】

お世話が必要な人のための各種サービス及び支援については、「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が54.4%で最も高く、次いで「お世話が必要な人の短期入所（ショートステイ）」が32.8%、「お世話が必要な人が身近に利用できるサービス」が32.5%となっています。



【E その他の支援】

その他の支援については、「経済的な支援」が24.6%となっています。



(39) ケアラー自身への支援に対する県や市町への意見・要望（自由記載）

以下、原文掲載を基本としつつ、一部編集・抜粋の上掲載。

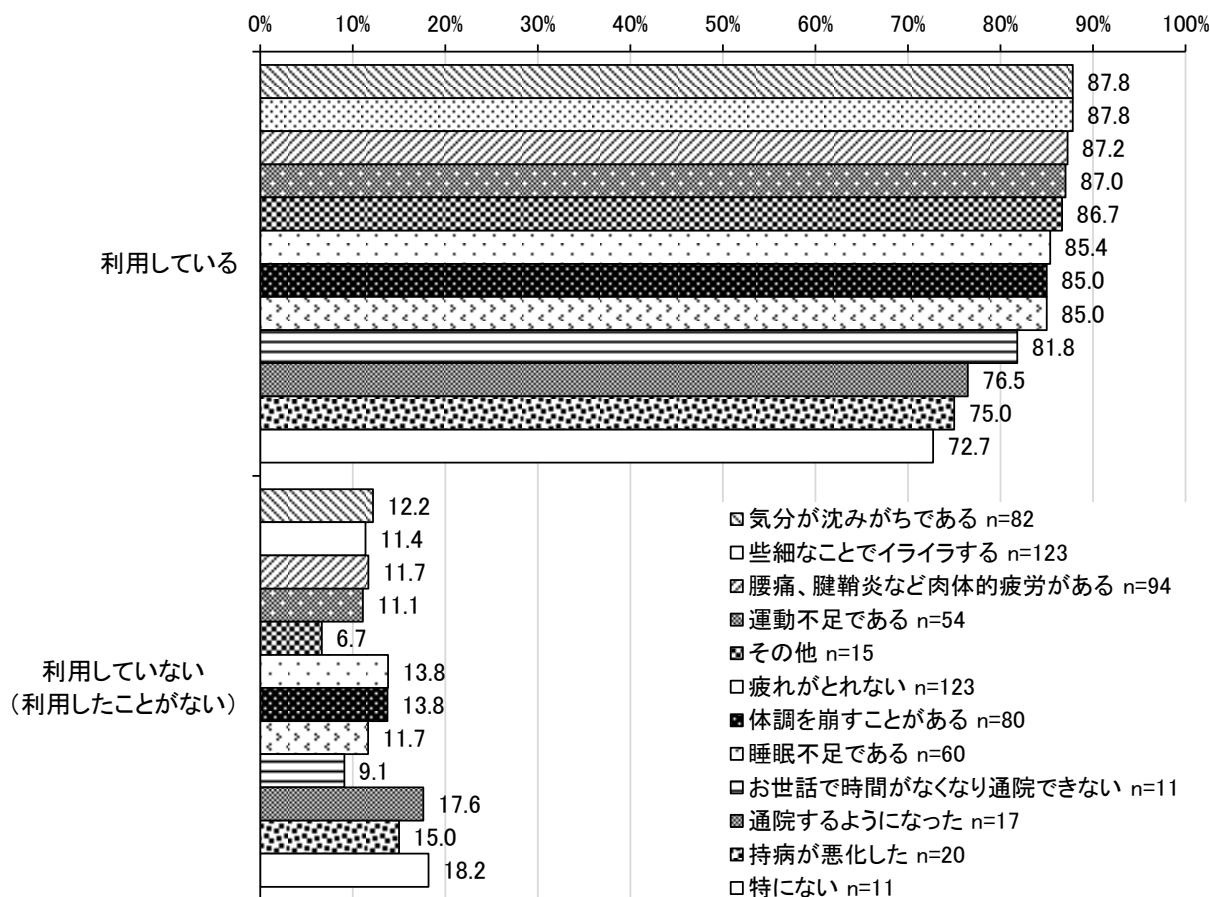
【ケアラー自身が相談できる人や場所】
時々、人と会って話をする事でストレスを発散する事が有効だと思っている。
家族の問題を行政やその他の支援者が知らないことが多いと思う。各家庭の置かれている状況を細かく把握して適切なアドバイス、または支援を行って欲しい。
サービスを受けるきっかけは、アルツハイマーと診断された時に、「今後どのようなこと必要か」と尋ねたところ、病院の医師がパソコンから他市町のサービスを出してくれた。とてもホッと、何とか前に進めた。日頃そういうものがあるとか、行政がどういうことをしているか中々わからないことから、病気を診断されどうしたら良いか不安になった時にサービスの手順・場所等々、病院から資料等を渡して頂けたらすごくホッとすると思う。
「どんなことで困っていますか」という声掛けを電話や訪問で気にかけていただけると非常にありがたい。困っていても申請をしなければ何も困っていないのだろうと思われるとつらい。
実際には介護していても認定を受けられるほどではないと周囲から言われてしまうと相談に行くハードルが高い。もっと気軽に相談できる場所があると介護する側の気持ちも楽になると思う。
要介護者本人の性格、適性によると思うが、介護サービスの一切を拒否して家族の負担のみ求めるのが現状で、何らかの手段が取れるような相談先があるのが望ましい。年々、金銭に対して執着するようになり、自ら出費を拒否する、様々な物や金がなくなったと騒ぐなど、相手するのが苦痛となる。相談先があるのが望ましい。
包括センター担当が良く相談に乗ってくれるので、母も私も助けて頂いている。
介護している人は、支援を受ける立場として負い目を感じていることがあり、サービスや事業所の変更をケアマネジャーに言いにくい時がある。また、ケアマネジャーにより勧められるサービスに違いがあり、本人又は家族の意向と違っていても、中々言い出せない。そのような時に、何でも相談できる窓口があると良い。公的な相談の窓口は、相談しにくい。
地域包括支援センターの方が毎月訪問して下さるので心強い。その間の変化や状態、質問や疑問など、メモを取っておいて報告や連絡させてもらい、アドバイスをいただくと満ち足りた気持ちで介護していただける。とてもありがたい。
地域包括支援センターの方にお世話になっているが、その時々状況を聞いてくれて、色々な提案をして頂いて感謝している。
お世話が必要な人に対しての支援について、制度や法整備も含め、充実していき、整えられているのを感じる。祖父母をお世話した時代には考えられない。また、社会や価値観の多様化、高齢化など様々な変化から問題点の複雑さも感じる。一人で何人も一度にお世話しなくてはならない事態が起きってしまうこともある。各自治体で状況にあった整備がさらに進み、また自治体同士の連携、県との連携を密にし、制度やサービスなどが整備され、一人も取り残されてしまう人がいないことを願う。

【ケアラー自身の負担を軽減する支援】
お世話をする人に用事がある時に預けたり、訪問してくれるサービスなど、自由に使えるサービスを充実して欲しい。
同居している家族がいても仕事をしていると介護は頼めないし、出来ないと思う。今のところ母は要支援1なので介護もあまり大変ではないが、これからが心配。泊りで出かけたが、心配で行けない。安心して預かってくれる場所が近所にあつたらいい。
介護休暇制度はあるが、介護度が低いと使えない。休暇の制度を整えて欲しい。通院の付き添いも大変疲れる。有休は自分のために使いたい。介護休暇の拡大を求める。
働いているため、お世話するための急な帰宅や、通院などのために有給を使うことが多い。有給も無くなり欠勤してしまうこともある。家にいる家族も精神障害などを抱えており、家族だけではお世話する人を助けられないこともあるため、自分が帰るしかない状態。そのため、休みが取りやすく、会社も休ませやすい制度を作って欲しい。有給を自分のために使いたい。その他、多数の介護をしているため、色々な対応をして欲しいと思う。また、自分一人で4人分の通院をしており、予定を立てるのが負担となっている。
「家族が世話して当然」は間違い。誰かが犠牲にならないと人生を終えられない社会はおかしい。自分の子や孫、そして何より自分自身が安らかに生活できる社会や制度であって欲しい。
今まで元気に仕事に励み、それなりの立場で生活していたのが、ある時急に倒れ、不随になった本人の苦しみを思うと、何とか介護をしてあげたいと思うが、自分も年を取ると疲れもなかなか取れない。それでも自分の事よりも相手の事を考え、動かざるを得ない事も多々ある。そんな時、一言声をかけてくれる事で、ストレスも少し解消できる。しかし、外に声を発する事が出来ない人達も多いと思う。民生委員、ケアマネジャーが時々訪問し、悩みを聞いてくれる時間も必要であると考える。
【ケアラー自身の精神的な支え】
老人世帯では、だれかに急変があっても、認知症では子供や親せき・知人に連絡が出来ない事が不安である。最低でも近所に連絡が出来るような事を何か考えたい。近所とは仲良くしているが日中は仕事で留守が多い。
お世話をする家族が手続きをするのをわかりやすくして欲しい。地方から年老いた親を引きとった時に、話など出来る場所や、本人、家族も集える場所があればいいと思う。
今は元気だから困らないが、自分が体調を崩した時に助けてくれる人がいると安心である。
ケアマネジャーがしっかりした方で助かっている。夫の世話で精神的な負担はない。家族の理解、親族の協力も多大である。高齢者のため現状維持のきびしさに直面している。医療関係者のプロフェッショナルなサポートに感謝している。
精神的な負担の軽減が図れるよう、無料の地域雑誌などに窓口を知らせるようにして欲しい。窓口がわかりづらいと思う。
【お世話がが必要な人のための各種サービス及び支援】
私は家族のいない実姉の世話をしている。ケアハウスに長年居て、そこの方達に良くしてもらっている。すぐそばにデイサービスもあり「本人」も機嫌よく通所しており、私の心のケアは主人の理解と周りにいる友達のお陰と考えている。
気軽に入れる施設がもっとあつたら良い。

【お世話が必要な人のための各種サービス及び支援】
同居していた兄弟と親が不仲になり、週末のみ親を預かっている。預かって初めて親の介護と兄弟の大変さがわかった。デイサービスや福祉用具は自宅からの送迎と決められているため、預かってもデイサービス利用前に自宅へ送らないといけない。福祉用具も住所地以外で同じものが借りられない。自費利用と言われた。動かせる用具ではないため、自宅以外でも借りられるようにして欲しい。自宅以外の送迎も考えて欲しい。
デイサービスを利用でき、感謝している。日中の数時間、母子分離が出来るとリフレッシュできる。しかし、私自身が高齢者と呼ばれる年齢になり、日々疲れがたまり負担に感じるようになった。安心して利用出来るショートステイが中々ない。急な対応が難しいのも事実である。自身の終活を意識する年齢になり、親亡き後の息子を思うと辛いものがある。いつでも安心して利用できるようご配慮して欲しい。
子供がいない夫婦のため、動けなくなったり、片方が亡くなってひとりになった時に簡単に施設へ入れるようにして欲しい。
住んでいる所が不便である。車も乗らなくなり、外出が自分でできなくなった。
公的サービス（地域包括支援センター、ケアマネジャー）や市役所での支援を受け、今後も家族で支えていきたいと思う。
買物、通院など高齢者や障がいのある方が住みやすい街作りをお願いする。
【その他の支援】
義母は要介護状態になり 10 年位になる。90 才を超えたがいつまでと考えるとつらい。
介護保険が家族の助けになるようにこれからもお願い致します。
支援は多々にわたっていると思う。介護している立場の人（特に本人）が調べたり聞いたりして利用すべきと思う。私自身そのようにして介護保険等を利用し十分に介護に向かっていると思う。

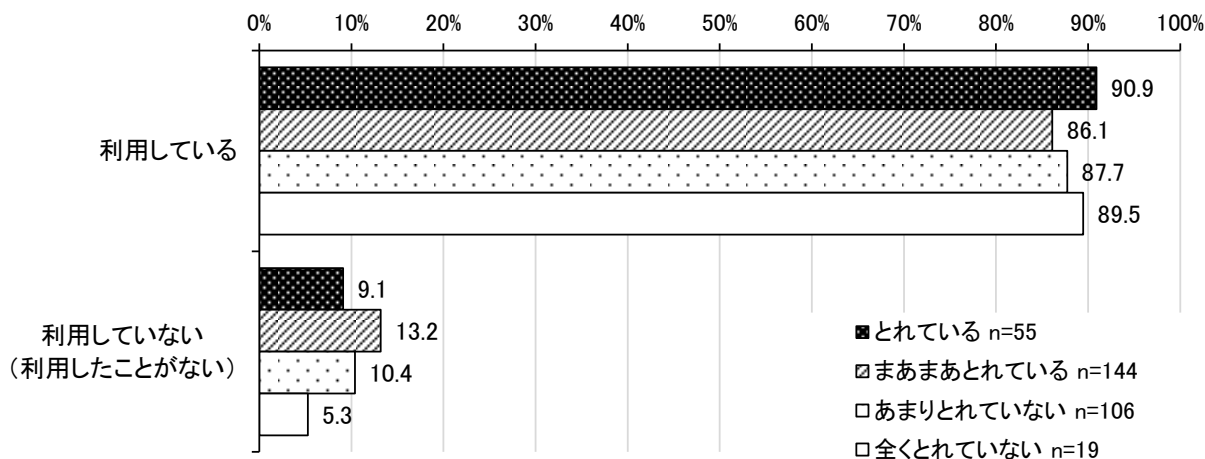
クロス集計 (24) お世話が必要な人の介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(33) お世話をすることによる健康状態への影響

介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とお世話をすることによる健康状態への影響については、公的支援を利用している場合は、「気分が沈みがちである」、「些細なことでイライラする」の割合がともに高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「通院するようになった」の割合が高くなっています。



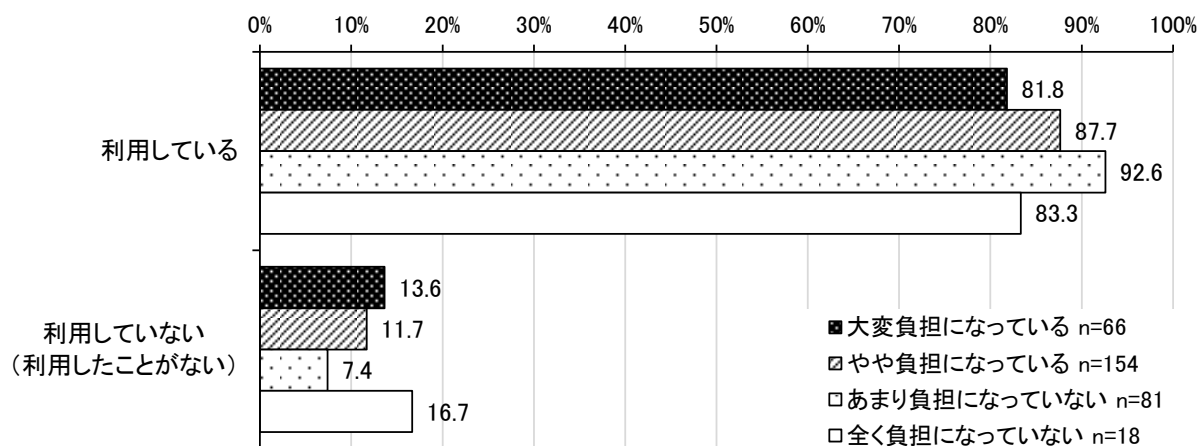
クロス集計 (24) お世話が必要な人の介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(34) 趣味や休息など、ケアラー自身のための時間の充足感

介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無と趣味や休息など、ケアラー自身のための時間の充足感については、公的支援を利用している場合は、「とれている」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「まあまあとれていない」の割合が高くなっています。



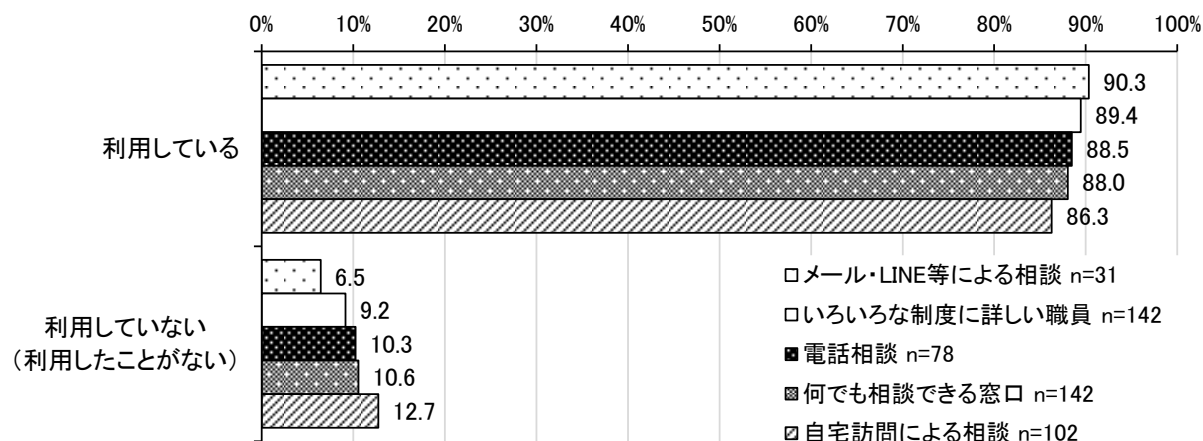
クロス集計 (24) お世話が必要な人の介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(36) ケアラー自身がお世話が必要な人に対する負担感

介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とケアラー自身がお世話が必要な人に対する負担感については、公的支援を利用している場合は、「あまり負担になっていない」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「全く負担になっていない」の割合が高くなっています。



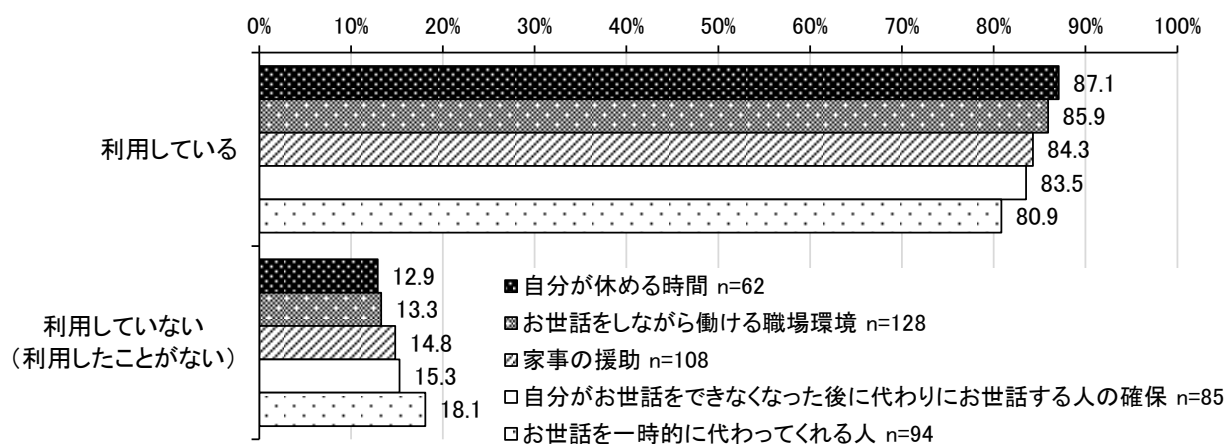
クロス集計 (24) お世話が必要な人の介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(38) ケアラー自身を支えるために必要だと思う支援
【A ケアラー自身が相談できる人や場所】

介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とケアラー自身が相談できる人や場所に対する支援については、公的支援を利用している場合は、「メール・LINE 等による相談」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「自宅訪問による相談」の割合が高くなっています。



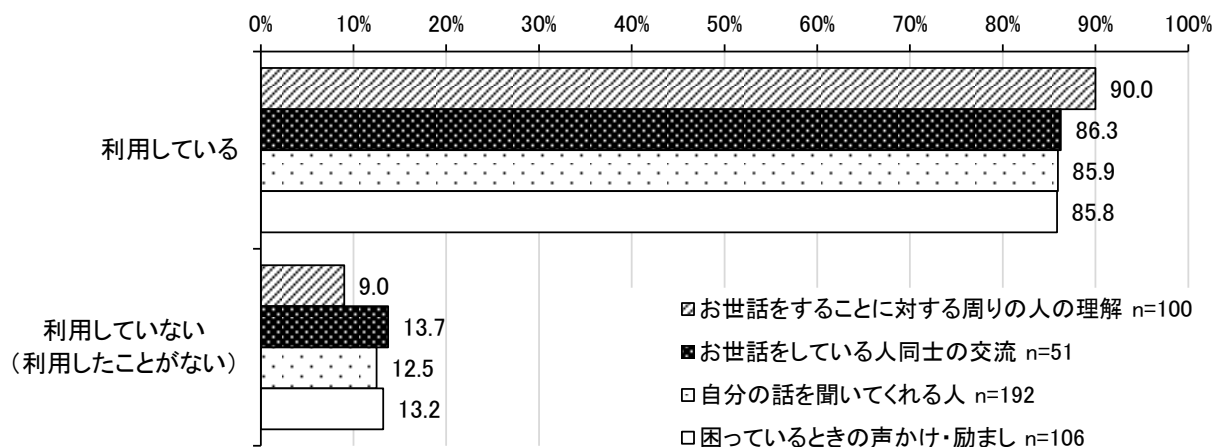
クロス集計 (24) お世話が必要な人の介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無×(38) ケアラー自身を支えるために必要だと思う支援
【B ケアラー自身の負担を軽減する支援】

介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とケアラー自身の負担を軽減する支援については、公的支援を利用している場合は、「自分が休める時間」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「お世話を一時的に代わってくれる人」の割合が高くなっています。



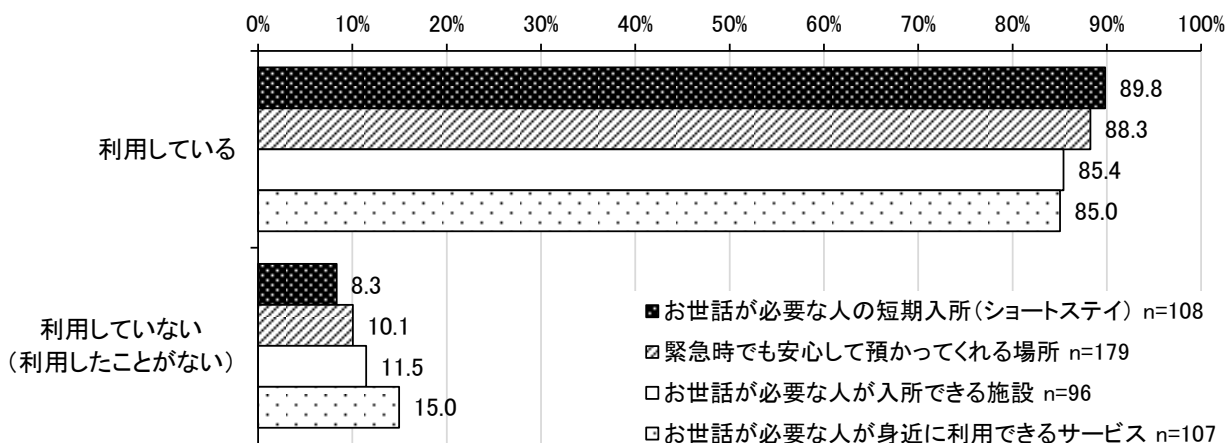
クロス集計 (24) お世話が必要な人の介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の有無×(38) ケアラー自身を支えるために必要だと思う支援
【C ケアラー自身の精神的な支え】

介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とケアラー自身の精神的な支えについては、公的支援を利用している場合は、「お世話をすることに対する周りの人の理解」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「お世話をしている人同士の交流」の割合が高くなっています。



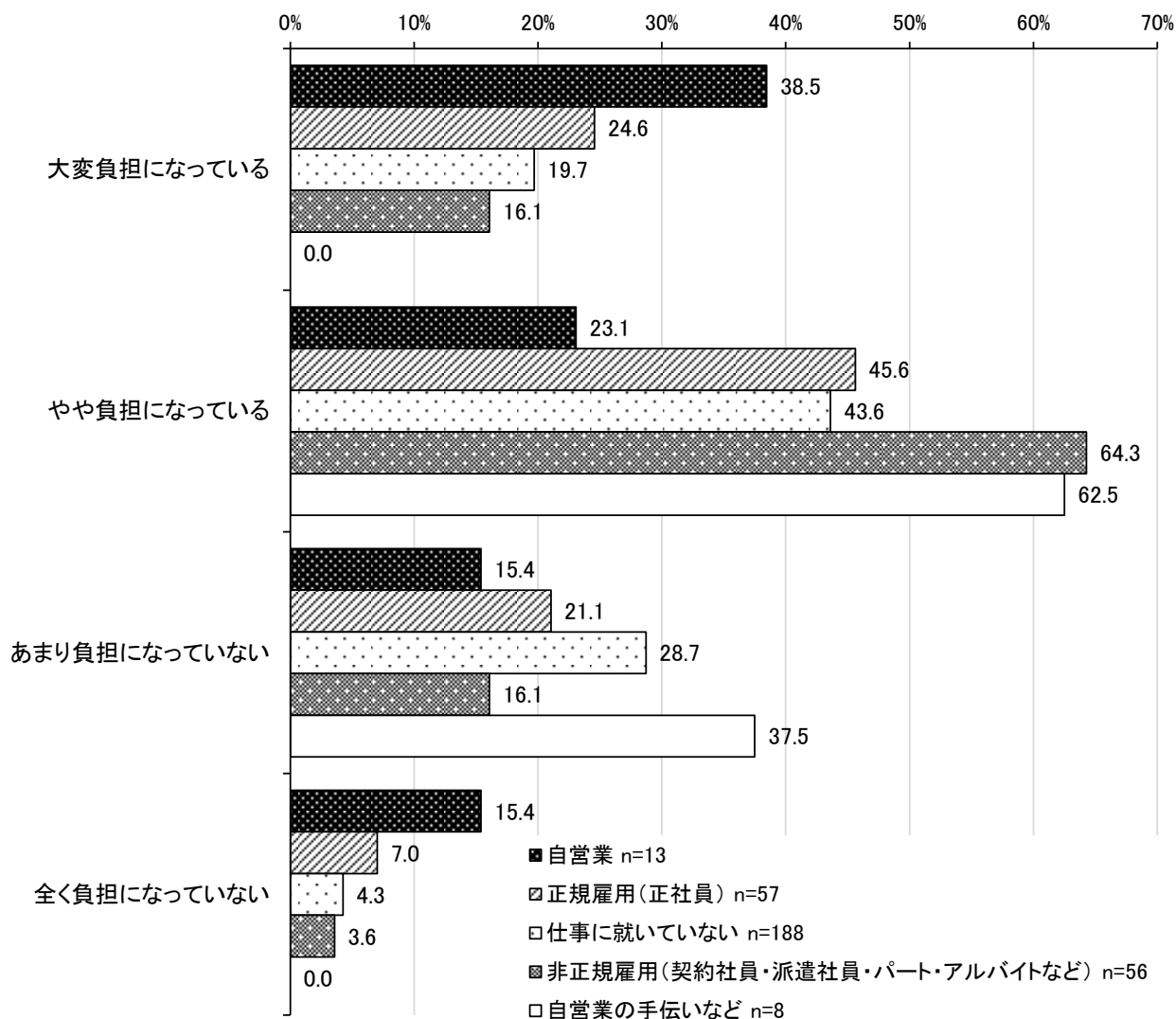
クロス集計 (24) お世話が必要な人の介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の有無×(38) ケアラー自身を支えるために必要だと思う支援
【D お世話が必要な人のための各種サービス及び支援】

介護保険サービスや医療サービスなどの公的支援の利用の有無とお世話が必要な人のための各種サービス及び支援については、公的支援を利用している場合は、「お世話が必要な人の短期入所（ショートステイ）」の割合が高い。一方、利用していない（利用したことがない）場合は、「お世話が必要な人が身近に利用できるサービス」の割合が高くなっています。



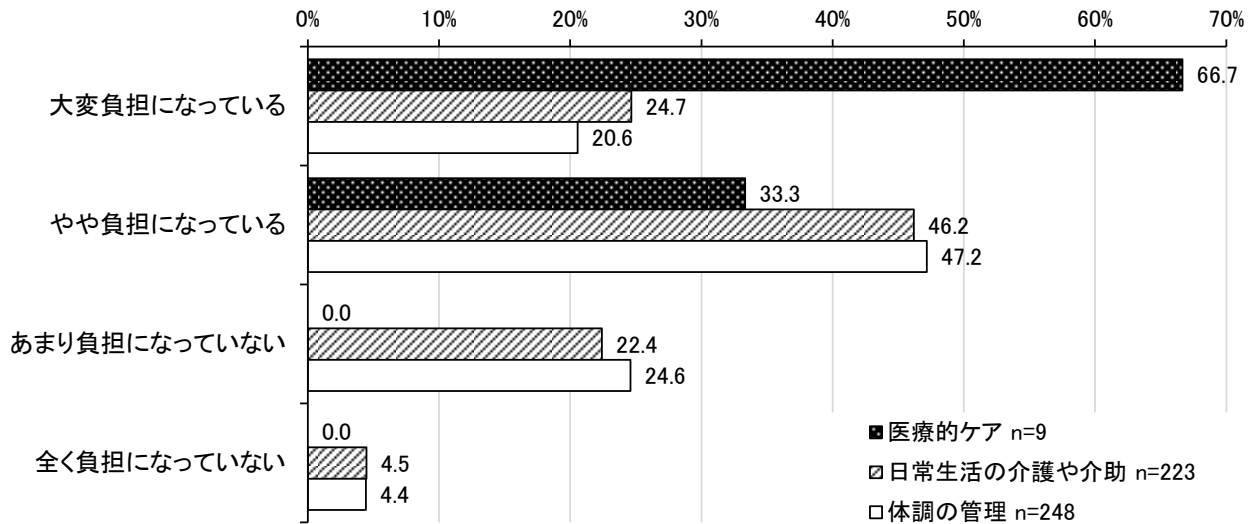
クロス集計 (36) ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感× (4) ケアラー自身の就労状況

ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感とケアラー自身の就労状況については、ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感が「大変負担になっている」場合は、「自営業」の割合が高く、「やや負担になっている」場合は、「非正規雇用（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトなど）」の割合が高い。一方、「全く負担になっていない」場合は、「自営業」の割合が高く、「あまり負担になっていない」場合は、「自営業の手伝いなど」の割合が高くなっています。



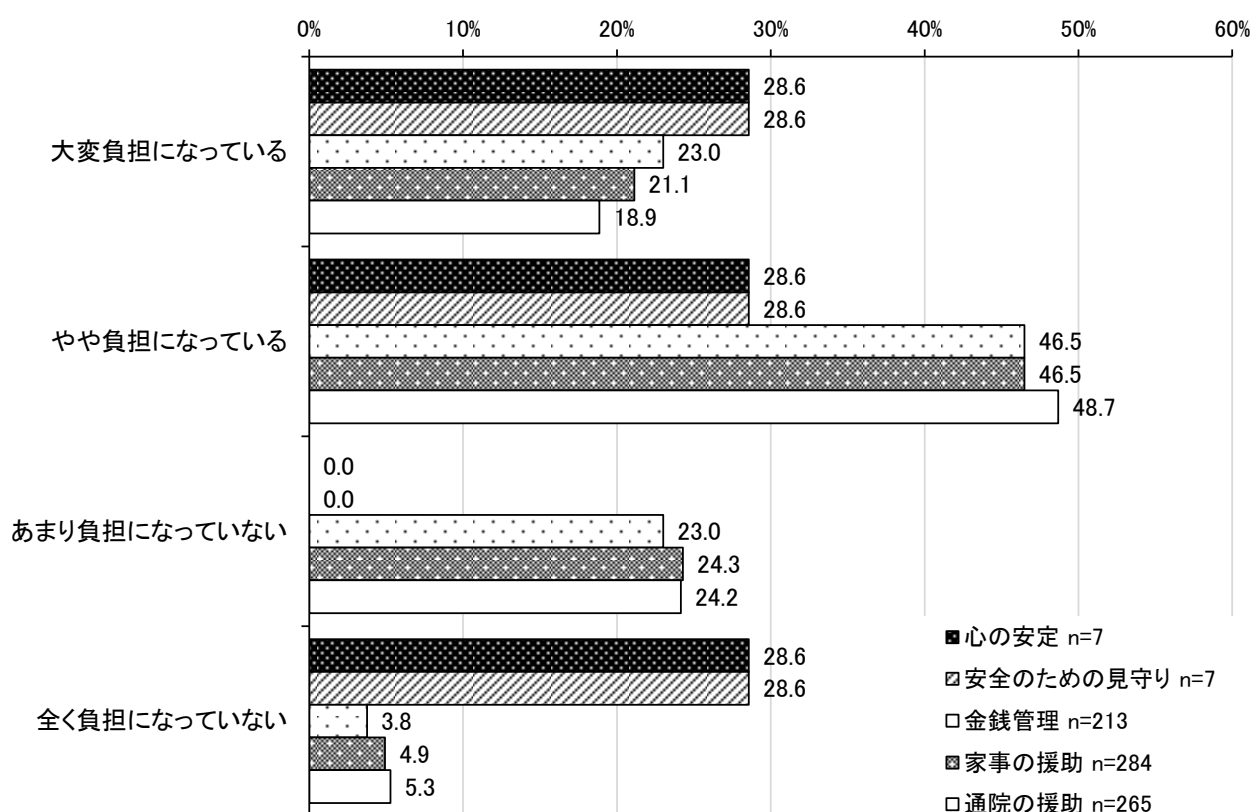
**クロス集計 (36) ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感×
(10) お世話をしている内容【A 身体的介護や介助のこと】**

ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感とお世話をしている内容のうち、「身体的介護や介助のこと」については、ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感が「大変負担になっている」場合は、「医療的ケア」の割合が高く、「やや負担になっている」場合は、「体調の管理」の割合が高い。一方、「全く負担になっていない」場合は、「日常生活の介護や介助」の割合が高く、「あまり負担になっていない」場合は、「体調の管理」の割合が高くなっています。



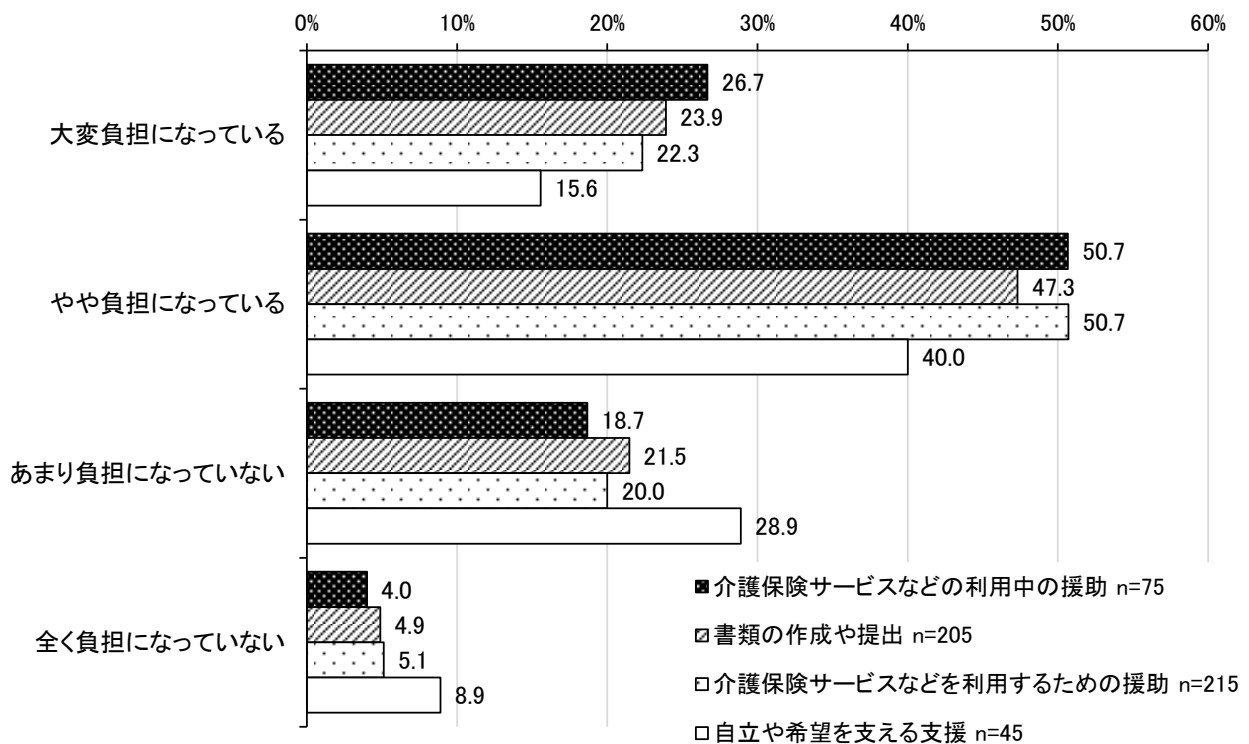
**クロス集計 (36) ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感×
(10) お世話をしている内容【B 日々の暮らしに関すること】**

ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感とお世話をしている内容のうち、「日々の暮らしに関すること」については、ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感が「大変負担になっている」場合は、「心の安定」、「安全のための見守り」の割合がともに高く、「やや負担になっている」場合は、「通院の援助」の割合が高い。一方、「全く負担になっていない」場合は、「心の安定」、「安全のための見守り」の割合がともに高く、「あまり負担になっていない」場合は、「家事の援助」の割合が高くなっています。



**クロス集計 (36) ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感×
(10) お世話をしている内容【C サービスの利用に関すること】**

ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感とお世話をしている内容のうち、「サービスの利用に関すること」については、ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感が「大変負担になっている」場合は、「介護保険サービスなどの利用中の援助」の割合が高く、「やや負担になっている」場合は、「介護保険サービスなどの利用中の援助」、「介護保険サービスなどを利用するための援助」の割合がともに高い。一方、「全く負担になっていない」、「あまり負担になっていない」場合は、「自立や希望を支える支援」の割合が高くなっています。



**クロス集計 (36) ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感×
(10) お世話をしている内容【D 趣味や余暇活動に関すること】**

ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感とお世話をしている内容のうち、「趣味や余暇活動に関すること」については、ケアラー自身を感じるお世話が必要な人に対する負担感が「大変負担になっている」場合は、「散歩の同行」の割合が高く、「やや負担になっている」場合は、「催し物（スポーツ観戦、演劇、コンサートなど）の同行」の割合が高い。一方、「全く負担になっていない」場合は、「催し物（スポーツ観戦、演劇、コンサートなど）の同行」場合が高く、「あまり負担になっていない」場合は、「趣味や余暇の支援」の割合が高くなっています。

